

古代都城出土の植物種実

2013～2015年度公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成
『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書



2015

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

古代都城出土の植物種実

2013～2015年度公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成
『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書

2015

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

例 言

1. 本書は、2013年10月～2015年9月の2年間、公益財団法人浦上食品・食文化振興財団から受けた研究助成金による「古代の植物性食文化に関する考古学的研究」（研究代表者：小池伸彦）の成果報告書である。研究助成金を交付いただいた公益財団法人浦上食品・食文化振興財団には、記して感謝申し上げる次第である。
2. 本研究で調査対象としたのは、奈良文化財研究所所蔵の遺跡出土植物種実資料である。
3. 本書に収録した写真は、巻頭図版1は『奈良文化財研究所紀要2013』掲載のものを再録したが、その他は主に吉田貴子が撮影し、青木麻佑花がこれを補佐した。
4. 本報告書の執筆・編集は、小池伸彦の監修のもと芝康次郎がおこなった。



スケール 1, 2, 6, 7, 14, 15, 24-26: 5 mm, 3-5, 8-13, 16-23, 27-41: 1 mm

1. ヤマモモ核, 2. クリ果実, 3. イタビカズラ胎核, 4. クワ属核, 5. マタタビ属種子, 6. アケビ属種子, 7. ムベ種子, 8. キイチゴ属核, 9. サンショウ果実, 10. サンショウ種子, 11. ムウサキシキブ属核, 12. ヤマブドウ種子, 13. プドウ属種子, 14. カキノキ種子, 15. カキノキ属種子, 16. ヤナギタデ果実, 17. イヌタデ果実, 18. イシミカ属果実, 19. サナエタデ, オオイヌタデ果実, 20. ゴシギシ属果実, 21. ノミノフスマ種子, 22. キケマン属種子, 23. カタバミ属種子, 24-26. メロン仲間種子, 27. ウリ属種子, 28. アリノトウグサ種子, 29. エゴマ果実, 30. シソ属果実, 31. ナス種子, 32. ナス属種子, 33. イボクサ種子, 34. メヒシハ属果実, 35. ヒエ有ふ果, 36. イネ籾殻, 37. アワ有ふ果, 38. エノコログサ属有ふ果, 39. カヤツリガサ属果実, 40. ホタルイ属果実, 41. 不明A種実



スケール 10mm : 1-3,5-10,12-25,28,29 5mm : 4,11,26,27,30,31

1. カヤ種子, 2. イヌガヤ種子, 3. チョウセンゴボウ種子, 4. ヤマモモ核, 5. オニグルミ核, 6. ヒメグルミ核, 7. ハシバミ堅果, 8. クリ果実, 9. クリ殻斗付果実, 10. クリ炭化子葉, 11. クリ炭化子葉 (小型) 12-14. クリ果皮 (六角加工), 15. ツブラジイ堅果, 16. スタジイ堅果, 17. シイノキ堅果, 18-21. モモ核, 22. アンズ核, 23. ウメ核, 24. スモモ核, 25. スモモ核 (果皮付) 26. サクラ属サクラ節核, 27. ナン亜科種子, 28. ナン亜科果実, 29. センダン核, 30. ムクロジ核, 31. イタヤカエデ果実

巻頭図版2 平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体 (1)



スケール 10mm: 33,38,42-44,50,57 5mm: 32,40,41,45-49,51-53,58,60-62 1mm: 39,55,4-6,59

32. *L. ussuriensis* 種子, 33. ナツメ核, 34. ツルグミ種子, 35. カキノキ種子, 36. カキノキ果実(小型), 37. カキノキ萼片, 38. マツ属種実, 39. アカマツ種子, 40. マツ属種実, 41. ヒノキ球果, 42. イチイガシ堅果, 43. アラカシ堅果, 44. コナラ属堅果, 45. コナラ属炭化種子, 46. コナラ属堅果, 47. アカガシ属堅果, 48. アカガシ属炭化堅果, 49. アカガシ属炭化堅果, 50. クヌギ堅果, 51. ムクノキ核, 52. クヌギ種子, 53. コブシ種子, 54. サンショウ種子, 55. アカメガシワ種子, 56. ブドウ属種子, 57. ツバキ属種子, 58. エゴノキ種子, 59. ミズナキ, 60. クサギ核, 61. ガマズミ核, 62. イネ地果

巻頭図版3 平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体(2)



スケール 10mm : 63,65,66,77,78 5mm : 68-76,79,83,85 1mm : 64,67,80,82,84

63. ジュズダマまたはハトムギ果実、64. コムギ炭化種子、65. ヒシ果実、66. ハス花托、67. ナス属種子、68. トウガン種子、69. メロン仲間種子(モルディカ型)、70. メロン仲間種子(マクウ・シロウリ型)、71. メロン仲間種子(ザッソウメロン型) 72. キカラスウリ種子、73. ウリ属種子、74. ウリ属種子、75. ウリ科種子、76. ウリ科種子、77. ヒョウタン種子、78. ヒョウタン果実、79. ミクリ属核、80. ヤナギタデ果実、81. ノミノフスマ種子、82. キケマン種子、83. オニバシ種子、84. タカサブロウ果実、85. オナモミ果実

巻頭図版4 平城京左京二条大路濠状遺構 SD5100 から出土した大型植物遺体(3)

目次

第1章 調査の経緯と経過および方法	1
I. 調査の経緯と経過	3
1. 調査の経緯	3
2. 調査の経過	3
II. 調査の方法	4
1. 調査の方法と本書での記載	4
2. 資料の保管と管理	6
第2章 藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実	7
I. 藤原宮・京跡出土の植物種実	9
1. 藤原宮・京跡植物種実出土遺構の概要	9
2. 便所遺構・井戸・土坑	9
3. 溝状遺構・運河等	9
II. 飛鳥地域の遺跡—石神遺跡—	11
1. 石神遺跡における植物種実出土遺構の概要	11
2. 井戸・土坑等	13
3. 溝状遺構	14
第3章 平城宮・京出土の植物種実	19
I. 平城宮跡出土の植物種実	21
1. 平城宮跡植物種実出土遺構の概要	21
2. 便所あるいは糞便遺構	21
3. 井戸・土坑・柱穴	24
4. 排水路・溝状遺構	28
II. 平城京跡出土の植物種実	33
1. 平城京跡植物種実出土遺構の概要	33
2. 井戸・土坑	33
3. 溝状遺構・条坊側溝等	43
第4章 結語	55

挿図目次

第1図	調査の様子	3
第2図	資料保管の状況	6
第3図	藤原宮・京跡における調査対象遺構の位置	10
第4図	石神遺跡における調査対象遺構の位置	12
第5図	石神遺跡から出土した大型植物遺体(1)	16
第6図	石神遺跡から出土した大型植物遺体(2)	17
第7図	平城宮跡における調査対象遺構の位置	22
第8図	平城京跡における調査対象遺構の位置	34
第9図	西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体(1)	40
第10図	西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体(2)	41
第11図	東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体(1)	50
第12図	東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体(2)	51

表目次

第1表	調査の経過	3
第2表	藤原宮・京跡出土の植物種実	11
第3表	石神遺跡出土の植物種実(1)	13
第4表	石神遺跡出土の植物種実(2)	14
第5表	石神遺跡出土の植物種実(3)	15
第6表	平城宮跡出土の植物種実(1)	23
第7表	平城宮跡出土の植物種実(2)	24
第8表	平城宮跡出土の植物種実(3)	24
第9表	平城宮跡出土の植物種実(4)	25
第10表	平城宮跡出土の植物種実(5)	29
第11表	平城宮跡出土の植物種実(6)	31
第12表	平城宮跡出土の植物種実(7)	32
第13表	平城宮跡出土の植物種実(8)	33
第14表	平城京跡出土の植物種実(1)	35
第15表	平城京跡出土の植物種実(2)	39
第16表	平城京跡出土の植物種実(3)	42
第17表	平城京跡出土の植物種実(4)	42
第18表	平城京跡出土の植物種実(5)	44
第19表	平城京跡出土の植物種実(6)	45
第20表	平城京跡出土の植物種実(7)	46
第21表	平城京跡出土の植物種実(8)	47
第22表	平城京跡出土の植物種実(9)	48
第23表	平城京跡出土の植物種実(10)	49
第24表	平城京跡出土の植物種実(11)	52
第25表	平城京跡出土の植物種実(12)	53
第26表	遺構・時期別にみた出土植物種実(藤原宮・京・飛鳥地域)	57
第27表	遺構・時期別にみた出土植物種実(平城宮・京1)	59
第28表	遺構・時期別にみた出土植物種実(平城宮・京2)	60
第29表	遺構・時期別にみた出土植物種実(平城宮・京3)	61

第1章

調査の経緯と経過および方法

I. 調査の経緯と経過

1. 調査の経緯

古代都城遺跡では、木簡をはじめとした多くの有機質遺物が出土する。この有機質遺物の中には、多数の植物種実が含まれており、これまで多くの資料が回収されている。出土植物種実は、当該期の食生活や古環境の一端を直接知りうる遺物として重要である。しかし、それらには、報告されていないものも多く、基礎的なデータが不足していると言わざるをえない状況である。そこで今回の調査では、出土植物種実のうち遺構の年代や性格が一定程度明らかなるものを対象として、出土種実資料の実態を明らかにすることを一義的な目的とした。本書では、まず基礎作業として、藤原宮・京跡（飛鳥地域含む）と平城宮・京跡において出土した植物種実について、出土遺構ごとに集成する。そして、出土植物種実の特徴について若干の考察を加えたい。

2. 調査の経過

調査は、2013年11月から2015年9月にかけて実施した。調査体制は以下のとおり（所属は2015年9月現在）。

研究代表者 小池伸彦（埋蔵文化財センター 遺跡調査技術研究室 室長）

研究協力者 神野 恵（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区） 主任研究員）

庄田慎矢（イギリス・ヨーク大学考古学科 研究員）※奈良文化財研究所・休職中

芝康次郎（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区） 研究員）

浦 蓉子（都城発掘調査部考古第一研究室（平城地区） アソシエイトフェロー）

廣瀬 覚（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区） 主任研究員）

和田一之輔（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区） 研究員）

諫早直人（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区） 研究員）

大谷育恵（都城発掘調査部考古第一研究室（藤原地区） アソシエイトフェロー）

調査補助員 吉田貴子、青木麻佑花

調査指導・同定協力者

那須浩郎（総合研究大学院大学 助教）

佐々木由香（株式会社 バレオ・ラボ）

調査資料は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所（以下、奈文研）所蔵資料である。まず、奈文研都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）所蔵資料について、次に同調査部（平城地区）所蔵資料についての調査を実施した。前者は、藤原宮跡、藤原京跡、石神遺跡の出土資料であり、後者は、平城宮跡、平城京跡、西大寺や西隆寺など寺院遺跡の出土資料である。調査対象とした遺構は、基本的に既報告のものであり、また時期や性格などは一定程度明らかなるものである。したがって、所蔵資料すべてを調査対象としたわけではない。ただし、未報告資料を差し引いたとしても、本書に記載した資料群によって、奈文研所蔵資料の大半は網羅していることを明記しておきたい。

分類作業にあたっては、これまで平城地区での整理作業で用



第1図 調査の様子

第1表 調査の経過

2013年			2014年											
11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
飛鳥・藤原地区での調査					平城地区での調査									
2015年														
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月						
平城地区での調査				データ整理・写真撮影・報告書作成										

いていた出土種実標本、植物種実に関する図鑑を参照した(第1図)。また、これらでも不明なものについては、専門研究者や分析業者に同定を依頼した。同定された種実が返却された後、これをもとに再度分類し直した。これらの作業と並行しつつ、データの集計作業、出土遺構との照合作業、そして実体顕微鏡を用いた植物種実の写真撮影をおこなった(第1表)。

II. 調査の方法

1. 調査の方法と本書での記載

今回の分類作業では、数量が数十万点に上ること、そして、遺跡出土資料という性格から破片資料もかなりの量に上ることから、分類が困難なものも少なくなかった。これらについては科、属レベルの分類にとどめたり、不明種実としたものもある。分類作業の結果、同定可能な種実は以下のとおりである。

木本植物は、カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc., イヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch, ハイイヌガヤ *Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K.Koch var. *nana* (Nakai) Rehd., チョウセンゴヨウ *Pinus koraiensis* Sieb. et Zucc., ヤマモモ *Myrica rubra* Sieb. et Zucc., オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitam., ヒメグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *cordiformis* (Makino) Kitam., ハシバミ *Corylus heterophylla* var. *thunbergii*, クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc., シノキ属 *Castanopsis*, ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* (Thunb. ex Murry) Schottky., スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatusima, ex Yamazaki et Mashiba, アンズ *Prunus Armeniaca* L., ウメ *Prunus Armeniaca mume* Sieb. et Zucc. モモ *Prunus persica* Batsch, スモモ *Prunus salicina* Lindl., サクラ属サクラ節 *Prunus* sect. *Pseudocerasus*, サクラ属の一種 *Prunus* sp., ナシ属 *Pyrus* sp., ナシ亜科 *Pyroideae*, ケイチゴ属 *Rubus* L. ヘビイチゴ *Potentilla heitchigo*, センダン *Melia azedarach* L., ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn., アケビ属 *Akebia*, ムベ *Stauntonia hexaphylla* (Thunb.) Decne., ミツバアケビ *Akebia trifoliata* (Thunb.) Koidz., ナツメ *Ziziphus jujuba* Mill. var. *inermis* (Runge) Rehd., ケンボナシ *Hovenia dulcis* Thunb., グミ属 *Elaeagnus*, アキグミ *Elaeagnus umbellata* Thunb., カキノキ属 *Diospyros*, カキノキ *Diospyros kaki* Thunb., クワ属 *Morus*, ヤマゲワ *Morus australis* Poir., イチジク属イタバカズラ節 *Ficus* sect. *Rhizocladus*, ヒメコウゾ *Broussonetia kazinoki* Sieb., マタタビ属 *Actinidia*, マタタビ *Actinidia polygama* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Maxim., サルナシ *Actinidia arguta* (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq., シマサルナシ *Actinidia rufa* (Siebold et Zucc.) Planch. ex Miq., キブシ *Stachyurus praecox* Sieb. et Zucc., ヤマビワ *Meliosma rigida* Sieb. et Zucc., マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon*, アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc., モミ属 *Abies*, ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl., コナラ属 *Quercus*, イチイガシ *Quercus gilva* Blume, アラカシ *Quercus glauca* Thunb., シラカシ *Quercus myrsinifolia* Blume, クスギ *Quercus acutissima* Carruth., アベマキ *Quercus variabilis* Blume., コナラ属コナラ亜属 *Quercus* subgen. *Lepodobalanus*, コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*, エノキ *Celtis sinensis* Pers., ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch., コブシ *Magnolia praecoccissima* Koidz., クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) Presl, クロモジ属 *Lindera*, イヌガシ *Neolitsea aciculata* (Blume) Koidz., フジ属 *Wisteria*, サンショユ属 *Zanthoxylum*, サンショユ *Zanthoxylum piperitum* (L.) DC., フコザンショユ *Zanthoxylum armatum* DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam., カラスザンショユ *Zanthoxylum ailanthoides* Sieb. et Zucc., イヌザンショユ *Zanthoxylum schinifolium* Sieb. et Zucc., アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Müll.Arg., ウルシ属 *Toxicodendron*, ブドウ属 *Vitis*, ヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat ex Planch., エビズル *Vitis ficifolia* Bunge, サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb., ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata* (Maxim.) Trautv. var. *heterophylla* (Thunb.) Hara., ツタ *Parthenocissus tricuspidata* (Sieb. et Zucc.) Planch., ツバキ属 *Camellia*, ヤブツバキ *Camellia japonica* L., ミズキ *Swida controversa* (Hemsl.) Soják, クマノミズキ *Swida macrophylla* (Wall.) Soják, エゴノキ *Syrax japonica* Sieb. et Zucc., ハクウボンボク *Syrax obassia* Sieb. et Zucc., クサギ *Clerodendrum trichotomum* Thunb., ガマズミ属 *Viburnum*, ニワトコ *Sambucus racemosa* L. ssp. *sieboldiana* (Miq.) Hara, モチノキ属 *Ilex* L., クロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb., ザクロ *Punica granatum* L., トチノキ *Aesculus turbinata* Blume, アオツツラフジ *Cocculus trilobus* (Thunb.) DC., イタヤカエデ *Acer mono* Maxim. var. *marmoratum* (Nichols.) Hara f. *dissectum* (Wesmael) Rehd., カエデ属 *Acer*, バラ属 *Rosa*, 以上の92分類群。

草本植物は、イネ *Oryza sativa* L., ハトムギ *Coix ma-yuen* Roman., ジュズダマ *Coix lacryma-jobi* L., オオムギ *Hordeum vulgare* L. var. *nudum* Hook. F., コムギ *Triticum aestivum* L., ヒエ *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno, ヒエ属 *Echinochloa*, ミクリ属 *Sparganium*, アワ *Setaria italica* (L.) Beauv., ハス *Nelumbo nucifera* Gaertn., ヒシ

Trapa japonica Flerov, ナス属 *Solanum*, ナス *Solanum melongena* L., イヌホオズキ *Solanum nigrum* L., トウガシ *Benincasa hispida* (Thunb.) Cogn., スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.) Matsum et Nakai, メロン仲間 *Cucumis melo* Linn., ウリ属 *Cucumis* sp., カラスウリ属 *Trichosanthes*, キカラスウリ *Trichosanthes kirilowii* Maxim. Var. *japonica* (Miq.) Kitam, スズメウリ *Melothria japonica* (Thunb.) ex Cogn., ヒョウタン仲間 *Lagenaria siceraria* (Molina) Standl., ゴキゾル *Actinostemma lobatum* Maxim, ex Franch. et Savat., ウリ科 Cucurbitaceae, シソ属 *Perilla*, エゴマ *Perilla frutescens* (L.) Britton var. *japonica* Hara, イヌコウジュ属 *Mosla*, オオバコ属 *Plantago*, ゴマ *Sesamum orientale* L., ダイズ属 *Glycine*, アズキ *Vigna angularis*, ヤブツルアズキ *Vigna angular* (Willd.) Ohwi et Ohashi ver. *nipponensis* (Ohwi) Ohwi et Ohashi, ササゲ属アズキ亜属 *Vigna*, カガイモ *Metaplexis japonica*, ゴボウ属 *Arctium*, タデ科 Polygonaceae, ヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Spach, サナエタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold., イヌタデ *Persicaria longiseta* (Brujin) Kitag., ウナギツカミ *Persicaria aestiva*, ポントクタデ *Persicaria pubescens* (Blume) Hara, イシミカワ *Persicaria perfoliata* (L.) H.Gross, ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench, ミゾソバ *Persicaria thunbergii* (Sieb. et Zucc.) H.Gross, キシギシ属 *Rumex*, ハコベ属 *Stellaria*, ナデシコ科 Caryophyllaceae, ノミノフスマ *Stellaria alsine* Grimm var. *undulata* (Thunb.) Ohwi, シロネ属 *Lycopus*, ムラサキシキブ属 *Callicarpa*, トウバナ属 *Clinopodium*, ハリイ属 *Eleocharis*, オニバス *Euryale ferox* Salisb., コウホネ *Nuphar japonicum*, アカザ属 *Chenopodium*, ケケマン属 *Corydalis*, カタバミ属 *Oxalis*, アリノトウグサ *Haloragis micrantha* (Thunb.) R.Br., イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.) Hand.-Mazz., メヒシバ属 *Digitaria*, エノコログサ属 *Setaria*, カヤヅリグサ属 *Cyperus*, カワラスガナ *Cyperus sanguinolentus* Vahl, コゴメガヤヅリ *Cyperus iria* L., ホタルイ属 *Scirpus*, ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Sojak subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama, スゲ属 *Carex*, スゲ属オニナルコ節 *Carex sect. Vesicariae* Drejer, ヒユ属 *Amaranthus*, タカサブロウ *Eclipta prostrata* L., オナモミ *Xanthium strumarium* L., メナモミ *Sigesbeckia orientalis* L. ssp. *pubescens* (Makino) Kitam., コメナモミ *Sigesbeckia orientalis* L. ssp. *glabrescens* (Makino) Kitam., キク亜科 Asteroidae, キンボウケ属 *Ranunculus*, タガラシ *Ranunculus sceleratus* L., アサ *Cannabis sativa* L., カナムグラ *Humulus japonicus* Sieb. et Zucc., ヒルムシロ属 *Potamogeton*, ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouché, サジオモダカ属 *Alisma*, オモダカ属 *Sagittaria*, クサネム *Aeschynomene indica* L., チドメグサ属 *Hydrocotyle*, コナギ *Monochoria vaginalis* (Burm.f.) Presl var. *plantaginea* (roxb) SolmsLaub., ミズアオイ *Monochoria korsakowii* Regel et Maack, カラムシ属 *Boehmeria*, キジムシロ属 *Potentilla*, ヤブジラミ属 *Torilis*, セリ属 *Oenanthe*, スミレ属 *Viola*, サクロソウ *Mollugo pentaphylla* L., マツモ *Ceratophyllum demersum* L., ツユクサ *Commelina communis* L. の 93 分類群。

両者あわせて 185 分類群におよぶ多種の植物種実が認められる。不明種実がこれに加わるので、実際にはさらに増える。種実組成は、遺跡、遺構ごとに大きく異なる。次章以降では、これらを遺構、層位ごとに計数した。計数は、部位（種子、核、果実、果皮など）ごとにおこない、個体の 2 分の 1 を超えて残存しているものを個体 1 点とし、2 分の 1 以下のものを破片としてカウントした。

以下、次章以降の表と本文の記載方法について述べる。

表中の記載に関して、遺構・層位および種実の数量表示や分類項目について以下の点に注意されたい。まず、遺構と層位については、遺構を示す遺構番号とその下位概念である層位からなる。今回対象の遺構番号には、頭に SB・SD・SE・SK・SX がつく。これは、それぞれ建物、溝、井戸、土坑（穴）、その他、という遺構の性格を示す。層位名は、取り上げ時のものをそのまま示した。そのため、本文中の遺構概要に記した層位名と顔面がある場合がある。本来、報告書に記載した層位名に統一すべきであるが、時間的制約から困難であった。今後修正を行うなどして改善を図りたい。

次に表中の種実の数量については、遺構、層位ごとに植物種実の数量を 2 列（左が個体数、右が破片数）で示している。また、いくつかの種類では、人為的な加工の痕跡をもつものも存在している。例えば、クリ果皮の場合、人為的に切断されたものや、さらに何らかの理由で果皮を六角形に整形したものが認められた。表中では、前者を「カット」、後者を「六角」と記している。ほかに、オニグルミやモモの核などにも人為的な打割の痕跡が認められた。これらについては表中に表していない。

なお、既刊報告書で分類や数量を示している場合がある。これらのうち、近年分析会社に依頼するなどして報告したものについては、基本的にその分類と数量を示した。報告済みのもので当研究所において整理、計数したものは、改めて調査を実施した。その結果、報告書に記載された数量と、本書での数量に齟齬が生じている場合がある。これは、報告時と今回の計数方法の差異、分類や計数の間違い、保管上の問題（経年劣化、紛失などによる計数不能）な

ど複数の要因によると考えられる。現状では、齟齬の原因は特定しがたいため、既刊報告書にて数量が示されているもので、今回計数し直したものについては数量を併記することとした。

本文では、該当遺構に関する説明の後、出土種実の概要を記している。また、特に種実の種類が豊富な遺構については、種実の写真を掲載した。遺構の記載は、既刊の報告書（『学報』、『概報』、『紀要』）によっている。ただし、本書で引用したのは、遺構の形態や埋土等の堆積状況、出土遺物（植物種実以外）に関する最小限の記載であり、詳細については巻末に記した文献（遺構別に記載）を参照いただきたい。なお、各節の記載は、便所遺構・井戸・土坑→溝状遺構という順におこなった。これは、現地性が高く閉鎖的遺構である前者と、より流動的で開放的遺構である後者という、遺構の性格の違いを重視したためである。前者の、とくに便所遺構の種実は、人が食したものが多く含まれていると考えられるが、後者には、食用とされたもの以外にも、祭祀などに関わる植物や、周辺植生に由来する種実が含まれていることが容易に想像できる。そうした性格の異なる種実が混在することは注意が必要である。また、後世の土壌擾乱の影響によって、由来の全く異なる種実が混入するコンタミネーションの存在も十分考慮しておかねばならない。これらの影響は、排除できるものではないため、遺構出土の植物種実の構成が、そのまま当該期のものであるとするには問題がある。これらの検討には、植物種実の構成や形態の検討、問題となる種実の年代測定の実施など、多角的な分析が必要である。ただし、今回は、こうした検討をおこなう以前の、基礎データの集積を目的とするため、遺跡出土種実が抱える問題を示すのみにとどめておきたい。

2. 資料の保管と管理

さて、分類、計数などの調査を終えた資料については、それぞれの地区の奈文研収蔵庫に保管している（第2図）。出土植物種実は、未炭化の状態のものがほとんどである。これらは乾燥させてしまうと種実そのものが崩壊、変形する恐れがあるため、基本的にエタノール水溶液（およそ10%濃度）を満たした小瓶に植物種実を分類群別に封入し、点数等を明記の上、調査次数別かつ遺構別に保管している。ただし、核（モモ核やクルミ類の核など）などそうした変形がほとんど起こらない資料については、十分に乾燥させてチャック袋に収納している。



第2図 資料保管の状況（奈文研平城地区）

第2章

藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実

I 藤原宮・京跡出土の植物種実

1. 藤原宮・京跡植物種実出土遺構の概要

藤原京は、持統8年(694)に建設された日本初の本格的都城である。その中心には、天皇の居所である内裏や儀式や政治の場である大極殿や朝堂、役所群等のある藤原宮が置かれた。

この藤原宮・京跡においては、便所遺構、井戸、土坑のほか、溝状遺構(運河含む)や沼状遺構から植物種実が出土している。その位置は第3図に示した。出土数量は、後述する飛鳥地域の石神遺跡や次章の平城宮・京に比べると少ない。しかし、便所遺構や時期が絞り込める井戸、土坑などで、植物種実が少なからず確認されている。また、藤原宮朝堂院地区の運河遺構では、豊富な植物種実が得られている。便所遺構SX7420を除き、大型の植物種実が目立ち、小型種実が見られないのは、2mmよりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないためと考えられる。

2. 便所遺構・井戸・土坑

a. 藤原京石京七条一坊

SX7420 西北坪で見つかった便所遺構。長さ1.6m、幅0.5mの長楕円形を呈する素掘りの土坑で、長軸を南北方向に置く。深さは現状で0.4mをとどめるが、周辺の柱穴等の遺存状況からすると、本来は1m前後の深さをもつと考えられる。内部には粒子の細かい黒色土が詰まっており、木簡や板状木製品、ウリの種子が堆積していた。7世紀後半。

出土した植物種実は、数量は不明ながら報文(黒崎編 1992)によると次のようなものがある。クワ種子、キイチゴ属核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ナス属種子、シソ属種子、アサ種子、メロン仲間種子など食用植物が含まれる。またこのほかにも、雑草が含まれており、アカザ属、カタバミ、ナデシコ科のような乾燥した人里を好む種類と、ホタルイ属、イボクサ、ギンギシなど溝や水性環境に生育する種類がある(第2表)。

b. 藤原宮西方官衙地区

SE8431 西方官衙地区における区画B東辺の塀の内側に位置する。掘方は深さ約1.8mで、開口部の直径は約2.4m。上から約1mのところで一辺約1.5m前後の方形となる。横板組の井戸枠を残す。井戸枠内埋土からは、飛鳥Ⅳの土器のほか、星座「羅堰九星」を描いた呪符木簡が出土した。井戸の埋土は均質で、一気に埋め戻されたと考えられる。7世紀後半。

植物種実として、モモ核が、掘方と埋土でそれぞれ1点(破片3点)、8点出土している(第2表)。

SK8471 西方官衙地区の区画B外にある南北棟掘立柱建物SB8460の西南に位置する土坑。直径4.6m、深さ1.3mのすり鉢状である。多量の土器(飛鳥Ⅳ)とともに、木簡や木製品が出土した。7世紀後半。

複数の層位に区分されているが、植物種実の構成は類似している。最も出土数が豊富な青灰粘土層をみると、ヒョウタン仲間種子が250点と最も多く、次いでモモ核71点(破片92点)、そしてナツメ核8点(破片3点)、スモモ類核5点と続く。このほかカヤ種子とオニグルミ核の破片が少量出土している(第2表)。

c. 藤原京石京七条二坊

SE275 東南坪の中央や南寄り位置する井戸。東西2.3m、南北2mの楕円形の掘方を掘り、中に横板蒸籠組の井戸枠を据えている。井戸枠は内法幅約45cm。井戸枠内からは飛鳥Ⅴの土器が出土している。7世紀後半～8世紀初頭。

植物種実として、モモ核8点が出土している(第2表)。

3. 溝状遺構・運河など

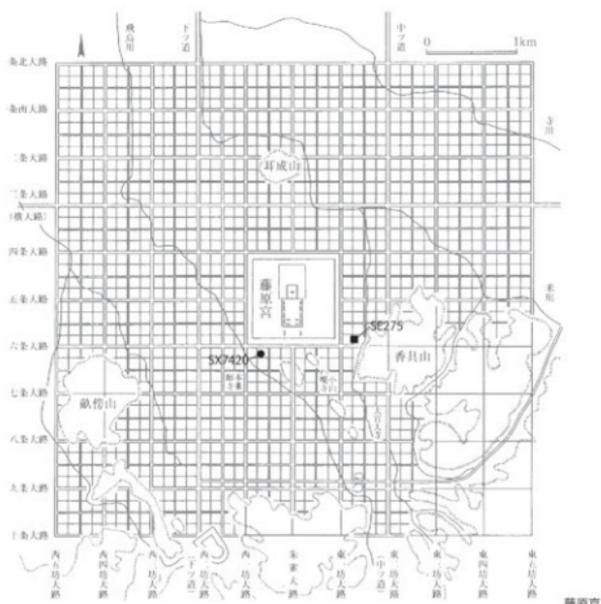
a. 藤原宮朝堂院地区

SD1901A 朝堂院地区を南北に貫流する運河。第一次整地である暗褐色粘土から掘りこんでおり、幅は約3～4mで、深さは2mを測る。埋土は下から機能時の堆積を示す粗砂層、細砂層、埋め立て時の青灰色粘土層である。粗砂層や細砂層には土器や動物骨、木器などを多く含む。埋め立てに際しては、斜行溝SD10801Aの底と同じ高さまで埋めた後、瓦を一括投棄し、さらに青灰色粘土で一気に埋めている。藤原宮造営期(7世紀後半)。

植物種実は、2度の調査(153次・169次)で出土している。再調査での種実の構成はよく類似している。粗砂層(153次)で最も多いのは、メロン仲間種子で、384点(破片300点)、次いでブドウ属28点(破片30点)、ヒョウタン仲間種子8点、サンショウ種子5点(破片3点)、カキノキ種子3点(破片1点)、ナツメ核2点などと続く。169



藤原宮



藤原宮

第3図 藤原宮・京跡における調査対象遺構の位置 (図は小澤 1997 より)

第2表 藤原宮・京跡出土の植物種実

分類群	部位	SX7420	SE275			SE8431			SK8471				SD1901A			SX10820	
			砂内	埋土	層方	炭化物層	青灰粘土	青灰粘土2	粗砂	青灰粗砂	青灰粗砂上層	13層	15層				
草本																	
カヤ	種子								1	1						7	
ヤマモモ	核											1				4	
オニダルミ	核						2	5									
クリ	果皮										7		1	7			
モモ	核		8	8	1	3	69	25	71	92	5	4					
スモモ類	核						3	5									
ムベ	種子												1				
キイチゴ属	核																
ナツメ	種子					1		8	3	1		2					
カキノキ	種子										3	11					
クワ属	種子												1				
クワ	種子	○															
コナラ属	堅果											2		3	8		
コナラ属	炭化子葉															5	
コナラ属	殻斗											3					
マメ科	種子															1	
サンショウ	種子	○										5	3	4			
ブドウ属	種子	○										28	30	72	50		
ノボドウ	種子	○														1	
ミズキ	核													1			
トチノキ	種子																
草本																	
イネ	籾													1			
ナス属	種子	○												13			
メロン仲間	種子	○										384	300	291	432	1	
ヒョウタン仲間	種子					8		250		14		5		3		5	
ヒョウタン仲間	果皮								○						10	6	
シソ属	実	○												2		2	
ヤブツルアズキ	種子																
タグア科	実	○										1					
ギンギン	実	○												369		95	
ホタルイ属	実	○															
カタバミ	種子	○															
アカザ属	種子	○															
カンボク属	実	○															
ナデシコ科	種子	○															
キク科	実	○															
カササゴ	実	○															
アサ	種子	○															
カヤツグサ属	実	○															
イボクサ	種子	○															
キクマン属	種子	○											61		59		
不明・同定不能													9	20	13		

次の青灰粗砂層では、タデ科果実が369点と多いが、次に多いのはメロン仲間種子で291点（破片432点）、そしてブドウ属種子72点（破片50点）と続く。このほか、キケマン属種子61点、ナス属種子13点、サンショウ種子が4点、ヤマモモ核、クリ果皮、ムベ種子、クワ属種子、ヤブツルアズキ種子も1点ずつ出土している（第2表）。

SX10820 朝堂院東北隅に掘削された沼状遺構。第一次整地土を掘り込んでおり、第二次整地土によって埋め立てられている。南北長は約50m、東西は現状では不明。深さは一部では70cmだが、それ以上になるものと考えられる。SX10820は、まず青灰色粘土によって15～20cmほど埋まり、その後一気に埋め立てられている。青灰色粘土は自然堆積と考えられるが、これより上位の埋め立て土からは土器（飛鳥Ⅰ～Ⅲ）、瓦、木製品（木屑含む）が出土した。7世紀中ごろから後半。

植物種実の出土数は多くはない。13層ではヒョウタン仲間種子が6点（破片2点）、メロン仲間種子が5点（破片6点）、ヤマモモ核が4点出土している。このほかにカヤ種子、コナラ属堅果の破片がある。15層では、ヒョウタン仲間種子がわずかに出土している（第2表）。

このほかに、藤原宮朝堂院東第二堂北半部の溜まり部から、キイチゴ属核66点、ホタルイ属種子6点が出土している（第5・6図）。

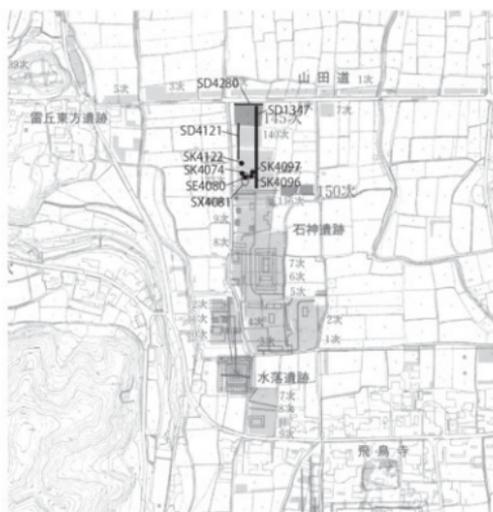
II 飛鳥地域の遺跡—石神遺跡—

1. 石神遺跡における植物種実出土遺構の概要

石神遺跡は飛鳥寺西北に隣接する遺跡で、中庭部では、7世紀代を中心とした建物や広場、井戸、溝などが計画的に配置されていたことが分かっている。最盛期は斉明朝のころで、「日本書紀」にみえる饗宴施設と考えられている。本節で対象とするのは、石神遺跡でも北方の種実出土遺構である（第4図）。この付近には、建物等の施設はほとんど



石神B期



石神B～C期

第4図 石神遺跡における調査対象遺構の位置 (下図は奈文研 2008 より)

第3表 石神遺跡出土の植物種実(1)

分類群	部位	SE4080	SK4060	SK4096	SK4097	SX4122	SX4074	SX4081					
								1層	2層	採取	一括		
木本													
カヤ	種子				1								
イヌガヤ	種子				2								
オニグルミ	核			2	2		1						
ハンパミ	堅果				2								
クリ	果皮			1	35	100c	2						
モモ	核	10	8	7	7	190	205	283	439	293	737		
スモモ類	核		4	2	26	2	57	23	23	2			
サクラ属	核				1								
センダン	核				1								
ナツメ	核	1		2	4	7	1	18	2	18			
カキノキ	種子		1					13	2				
クワ属	種子							1					
アカマツ	球果				1								
コナラ属	堅果			12		1		2		2			
コナラ属	殻斗					2							
アカガシ属属	果実+殻斗					2							
アカガシ属属	幼果					1							
マメ科	種子				1								
サンショウ	種子				1		2						
アカメギシワ	種子				1								
ブドウ属	種子							1					
トチノキ	種子				1	2							
草本													
トウガン	種子					32	5						
メロン仲間	種子	73	13	320	190	192	35	434	297				
キカラスウリ	種子					1	1						
ヒョウタン仲間	種子	4				95	26	22	8				
カナムグラ	種子					4							
キタ科?	?					4	○						
不明・測定不能						9	○	3	3				

どなく、溝や土坑で構成されている。しかし、中枢施設群と期を一にした遺構変遷が認められ、両者が関連していることを示している(奈文研2008)。植物種実、井戸や土坑、そして溝状遺構から多数出土している。特に後者からの出土量は、飛鳥、藤原地域で最も多い。ここで調査対象とした遺構の年代は、ほぼ7世紀後半に限られており、当該期の植物利用や植生復元に重要な資料と考えられる。ただし、藤原宮・京と同様に、2mmよりも目の細かい篩を使用した調査がおこなわれていないため、相対的に大型の種実が目立つ。なお、本遺跡出土の種実写真を第5・6図に示した。以下、個別にみていく。

2. 井戸・土坑等

SE4080 石敷 SX4081 中にある井戸。石敷とは一連の遺構である。直径1m、深さ約1.2mで20～60cm大の自然石を4～5段組み上げている。底部には5～10cm大の玉石を敷く。埋土は上から暗褐色粘土、石組と同様の石を含む灰色粘土、搗鉢状にたまった青白色砂と灰色粘土、白状に厚く堆積した灰色砂、最下層の薄い灰色粗砂という順である。堆積状況からみて灰色砂を一度浚渫している。

植物種実として、メロン仲間種子73点(破片13点)、モモ核10点(破片8点)、ヒョウタン仲間種子4点、ナツメ核1点が出土している(第3表)。

SK4060 上層整地にともなう土坑。東西2m以上、南北11mの溝状を呈し、深さ0.3m。北側をSD4089に切られている。

植物種実、メロン仲間種子320点(破片130点)と最も多く、次いでモモ核7点(破片7点)、スモモ類核4点(破片2点)、ナツメ核2点(破片4点)、カキノキ種子1点と続く。このほか、コナラ属堅果破片、クリ果皮が出土している(第3表)。

SK4096 南北溝SD4090の堆積土を切り、C期の石敷SX4081と整地土に覆われている土坑。木屑を多量に含む。B期廃絶～C期造営に伴う廃棄土坑であろう。この土坑は、厳密にはSD4090と掘り分けられておらず、一部はSD4090に帰属する可能性がある。

出土植物種実として最も多いのは、メロン仲間種子で193点(破片36点)、次いでモモ核が180点(破片205点)、ヒョウタン仲間種子95点(破片26点)、スモモ類核26点(破片2点)である。このほか、ナツメ核、コナラ属堅果、クリ果皮、サクラ属核、サンショウ種子、トチノキ種子、キカラスウリ種子、カナムグラ種子、オニグルミ核(破片)などが出土している(第3表)。

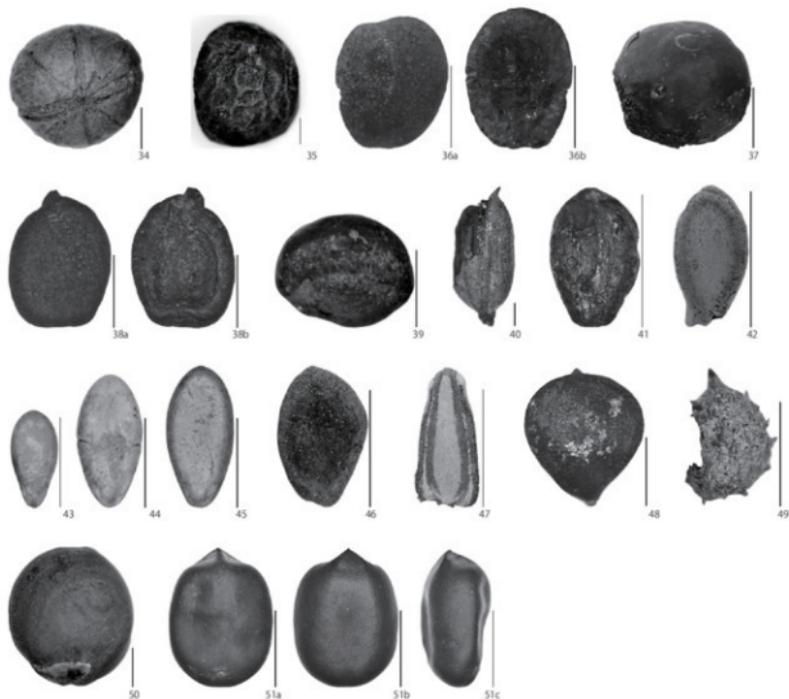
SK4097 B期の溝SD4090の堆積土を切り、C期の整地土に覆われている土坑。埋土に楡皮が多く含まれている。出土植物種実の構成は、SK4096と類似している。最も多いのはやはりメロン仲間種子で434点(破片297点)、



スケール 10mm: 1-3,5-7,9-12,14,16-18,20,22-26 5mm: 4,8,13,19,21 1mm: 15,27-33

1. カヤ種子, 2. イヌガヤ種子, 3. ハイイヌガヤ種子, 4. ヤマモモ核, 5. オニグルミ核, 6. ハシバミ堅果, 7. クリア皮, 8. ツブラジイ堅果, 9-10. モモ核, 11. スモモ核, 12. サクラ属サクラ節核, 13. ナシ亜科種子, 14. ナシ亜科果実, 15. キイチゴ属核, 16-17. センダン核, 18. ムクロシ核, 19. ムベ種子, 20. ナツメ核, 21. カキノキ種子, 22. アカマツ球果, 23. アカマツ種球, 24. イチイガシ炭化子葉, 25. アカガシ亜属堅果, 26. アカガシ亜属殻斗付堅果, 27. アカガシ亜属幼果, 28. サンショウ種子, 29. サンショウ果皮付種子, 30. イヌザンショウ種子, 31. アカメガシワ種子, 32. ブドウ属種子, 33. ミズナ核

第5図 石神遺跡から出土した大型植物遺体(1)



スケール 10mm : 37,42,46,47, 5mm : 38,39,41,43-45,49,51 1mm : 34,35,40,48,50

34. クマノミズキ核、35. クサギ核、36. トチノキ果皮、37. トチノキ種皮、38. トチノキ果皮 (小型)、39. トチノキ種皮 (小型)、40. イネ皮付胚果、41. オオム平民化皮付胚果、42. トウガン種子、43. メロン仲間種子 (ザッソウメロン型)、44. メロン仲間種子 (マクワシロウリ型)、45. メロン仲間種子 (モルディカ型)、46. キカスウリ種子、47. ヒョウタン種子、48. ネタリイ属種子、49. オナモミ果実、50. カナモミ種子、51. トウゴマ種子

第6図 石神遺跡から出土した大型植物遺体 (2)

近を南限に認識できなくなる。大量の木屑とともに木簡やその削り屑も出土した。流水により砂層などが確認できなかったため、C期への造成工事の工程で排水用の溝を掘り、それを木屑等で埋め、さらにその上に後半に木屑等を廃棄したものと考えられる。

豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で489点(破片692点)、次いでメロン仲間種子が427点(破片215点)、ヒョウタン仲間種子96点(破片70点)、スモモ類核77点(破片9点)、サンショウ種子37点(破片8点)、ナツメ核27点(破片2点)と続く。このほかはいずれも10点未満であるが、カヤ種子、ヤマモモ核、カキノキ核、ミズキ核、クマノミズキ種子、トウガン種子などが出土している(第5表)。

SD4280 阿信山田道の可能性があるSF2607の南側溝とされる。幅1.3~2.5m、深さ0.2m。長さ33m分を検出した。埋土は灰色粗砂で飛鳥Vの土器を多く含む。

植物種実としては、モモ核が最も多く290点(破片123点)、このほかオニグルミ核、クリ果皮などが少量出土している(第5表)。

このほかに、時期が不明確な遺構からイヌザンショウ種子、オナモミ果実、オオムギ類果(炭化)が出土している(第5・6図)。

第3章

平城宮・京出土の植物種実

I 平城宮跡出土の植物種実

1. 平城宮跡植物種実出土遺構の概要

和銅3年(710)に藤原京から平城京に都が遷された。藤原宮と異なり、平城宮は京城の北端に置かれた。平城宮の内部には、藤原宮と同様に内裏や、大極殿、朝堂、そして様々な役所群が配置されている。これまでの調査の蓄積によって、各施設群で数時期の遺構変遷が認められているが、特に、奈良時代の前半と遷都後の奈良時代後半とで大きく変化することが分かっている。

平城宮跡における植物種実出土遺構は、便所あるいは糞便遺構、井戸、廃棄土坑、溝(宮内基幹排水路など)である。このうち、便所あるいは糞便遺構は、まだ東方官衙地区で見つかった数例にすぎない。これに対して、井戸や土坑、溝については多くの発掘事例があり、木簡をはじめとして多くの人工遺物が見つかっている。植物種実についても数多く回収されているが、定量的な分析を念頭に置いた調査事例が少ない。多くはピックアップ法によっており、また篩がけが行われたとしても2mm目以上の選別によっている。このことに注意が必要である。以下、上述の順に、植物種実が出土した遺構の概要およびそこから出土した種実の数量を見ていく。なお、植物種実出土遺構の位置は、第7図に示した。

2. 便所あるいは糞便遺構

a. 東方官衙糞便遺構

第440次調査において6基検出した。これらの遺構からは土器等の資料があまり得られておらず、年代は判然としないが、周辺の遺構との関係から奈良時代末までには埋没していると考えられる。植物種実はSX19198を除いて200ccの土壌を0.25mm目の篩で水洗選別したもので、SX19198のみ約3000ccの土壌を2mm、1mm、0.5mm目の篩を用いて選別した。詳細については、『奈文研紀要2010』と『奈文研紀要2013』にて報告しているので、そちらを参照された。なお、これらの遺構群の種実の数量は第6表に、写真は巻頭図版1に示した。

SX19196 平面形は東西にやや長い隅丸方形で、東西62cm、南北50cm、残存する深さは最大20cmである。埋土は黒褐色や褐色色の粘性の強い砂質土で、露木97点と炭化物を含む。露木の間からは、数十粒で1単位をなすメロン仲間種子が数単位で検出された。

植物種実は、キイチゴ属核221点、メロン仲間種子88点と多く、ナス、コナギ、スゲ属、ホタルイ属を含む。

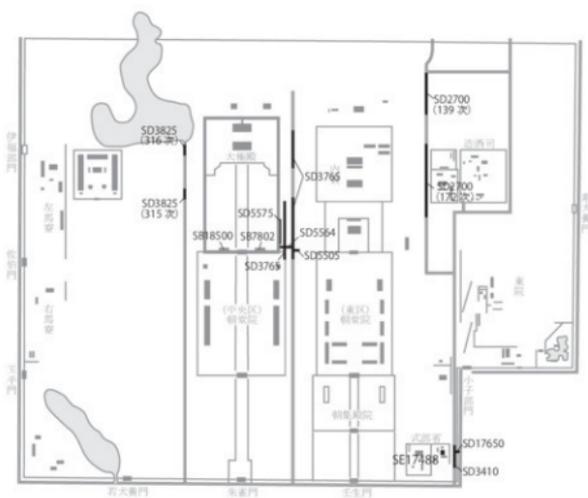
SX19197 平面形は隅丸方形で、南北60cm、東西50cm、残存する深さは37cmである。埋土は黒褐色や褐色色の粘性の強い砂質土で、露木36点を含む。

植物種実には、イヌホズキ種子21点、アリノトウグサ果実14点、カヤツリグサ科果実11点と雑草類と考えられる種類が多い。イネ類、ナス種子、メロン仲間種子、サンショウ属果実、シソ属果実も少数が存在する。

SX19198 平面形はややいびつな方形で、東西、南北ともに70cmをはかる。残存する深さは30cmである。埋土はSX19197と同様で、露木7本を含む。

200ccの水洗選別から回収された種実では、キイチゴ属核156点、メロン仲間種子81点(破片18点)と多く、イヌホズキ種子、スゲ属果実、ナス種子、カヤツリグサ科果実、イネ類、アリノトウグサ果実、ホタルイ属、マタビ属種子、イネ科類、コナギ種子、ミソソバ果実、ザウロソウ種子、カタバミ属種子と続く。一方、約3000ccから回収した種実では、キイチゴ属核10442点(破片39点)、メロン仲間種子5401点(破片2386点)、ナス属種子928点、ナス610点(破片201点)と、これらが多数を占める点は200ccの結果を追認するが、アケビ属種子918点(破片637点)、イタビカズラ節核526点(破片5点)、ヤナギタデ果実371点(破片23点)、クワ属核278点(破片1点)、ムベ種子163点(破片9点)など、200ccの中には含まれていないにもかかわらず、比較的多く含まれるものも存在する。このほか、ヤマモモ核、ヤマブドウ種子、カキノキ種子、ブドウ属種子、エゴマ果実、シソ属果実などの食用植物も豊富に存在し、キケマン属種子、カタバミ属種子、アリノトウグサ種子、エノコログサ属有ふ果、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実など雑草類も少なからず存在する。

SX19199 平面形は不整形で、東西は最大で96cm、南北は最大で60cm、残存する深さは26cmである。埋土は上層と下層で分かれ、下層は暗黄灰細砂、上層は黒色砂に下層の土がブロック状に入る。露木56点を含み、遺構の西北隅にはU字形の黒色砂質土の塊があった。種実分析では上面と露木付近の2ヶ所でおこなったが顕著な違いは認められない。カヤツリグサ科がやや多く、アリノトウグサ、スゲ属など雑草類が主体を占める。食用植物では、メロン仲間の破片が確認されている。



奈良時代前半



奈良時代後半

第7図 平城宮跡における報告対象遺構位置図(下図は井上2007より)

第6表 平城宮跡出土の植物種実(1)

分類群	部位	SX19198		SX19196		SX19197		SX19198		SX19199		SX19202		SX19189		
		埋土	露木上	上層	上層	上層	上層	上層	露木付近	下層	露木周辺	A-16層	B-21層	C-22層下		
木本																
ヤマキモ	核	84	36											3		
ウリ	果実		6													
キキ	核															1
キイチゴ属	核	10442	39	221			156				4	1				
アケビ属	種子	918	637													
ムベ	種子	163	9													
カキノキ	種子	57	70													
カキノキ属	種子	5	1													
クワ属	核	278	1													
イタビカズラ属	核	326	5													
マタタビ属	種子	62					1									
シマサルナシ	種子										1	2				
サンショウ	種子	10	2													
サンショウ	果実	1														
サンショウ属	果実			1												
ヤマブドウ	種子	19														
ブドウ属	種子	12	1													
草本																
イネ	籾殻	10	47													
イネ	穎			10		5				18	1	30	1	19		
ヒエ	穎			1							5	1	5			
ヒエ	有ふ実	59	6													
アワ	有ふ実	1														
イネ科	穎			1	1						2	1		6		2
ナス	種子	610	201	12	2	4	7	1				33	5			
イヌホウズキ	種子				21		11	2		1		34	85	3		
ナス属	種子	928														
メロン仲間	種子	5401	2386	88	1	3	81	18	2	1	9	11	29	19	1	
ウリ属	種子	29	2													
エゴマ	果実	19	36									16	102	8	45	1
シソ属	果実	2			1							1	1	1	4	15
シソ科	果実											1	1	1		
ゴマ	種子											8	11	6	12	
ヤナギタデ	果実	371	23													
サナエタデ	果実	1												6	76	
イヌタデ	果実	3														2
イシミカウ	果実	1														
ギンギン属	果実	1														
ミソソバ	果実															
タデ属	果実			1		1									19	11
ノミノフスマ	種子	3						1								
ナゲシロ科	種子			1												
ムラサキシキブ属	核		1								1	22		34	4	36
アカザ属	種子													1		
キクマン属	種子	96														
カタバミ属	種子	4					1		1	1	3	1		19	6	2
アリノトウグサ	種子	13	2													18
アリノトウグサ	果実			14		3		2	4		21	1				
イボクサ	種子	1														
メヒシバ属	果実	1														
エノコログサ属	有ふ実	5														
エノコログサ属	穎											3		6	11	
カヤツリグサ属	果実	11														
ホタルイ属	果実	39	8	4	1	9	2	1	1	6	8	1				
スズ属	果実			5	1		9		1	3	1	5	15			
カヤツリグサ科	果実					11	7	10	1	5	12	1		5	2	13
アブラナ科	種子					5								4	2	11
ヒユ属	種子													7		
キク科	果実													1		
ヘラオモダカ	果実													1		
ナムメグサ属	果実							1						20		4
コナギ	種子		11		2	1	1	1	2	2						
ホシムシロ属	種子			1												
イダ科	種子							2								
ザクロコウ	種子			14		1								5	8	52
不明・同定不能		42	4													

SX19202 大部分は廃棄大土坑SX19189に壊されており、平面形は不明である。深さは35cmである。中層はオリープ黒色の粗砂、下層は黒色粗砂で、露木26点が出土した。

種実分析は、下層と下層の露木周辺の2ヶ所でおこなったが、これも両者で顕著な差は認められない。両者ともイヌホウズキ種子がそれぞれ34点、85点、エゴマ果実が16点(破片102点)、8点(破片48点)と多い点が一致する。また、キイチゴ属核、シマサルナシ種子、イネ穎、ゴマ種子、メロン仲間種子など食用植物を豊富に含んでいる点も共通する。

2. 井戸・土坑・柱穴

(1) 井戸

a. 第一次大極殿院広場の井戸

SE9201 A地区西南にある井戸。井戸の掘方は矩形を呈し、上下二段にわかれる。上段は南北7.3m、深さ1.7mあり、下段は上段掘方の西北寄りを深くしたもので、東西4.9m、南北4.5m、深さ1.9mであり、遺構検出面から底面までの深さは3.6mとなる。下段掘方の底には4段の井戸枠をとどめるが、その上部は抜き取られている。井戸枠採取痕跡は底から約1mの厚さで埋めもどされる（青灰色粘土）。井戸の内法は、方2.25mで、枠木の1段目と3段目には板を用い、2段目と4段目には校倉の校木を転用している。井戸枠と掘方の間は木屑をまじえた灰褐色砂で埋め込み、井戸底には拳大の玉石を敷く（厚さ10cm）。玉石敷の上部に堆積する暗灰色土は、10世紀代の土師器があり、ほかに瓦片と木器があった。Ⅲ期およびそれ以降も使用されたことを示す。8世紀後半ないし9世紀初頭に掘られ、10世紀に廃絶。

植物種実、最下層の暗褐色粘土から出土したもので、モモ核8点（破片1点）、ウメ核2点（破片1点）のほか、破片資料として、ハシバミ堅果、クリ果皮、センダン核がある（第7表）。

b. 式部寄東方官衝の井戸

SE17488 井戸掘方とともに井戸枠の採取穴も確認した。方形横板組の井戸枠をもち、井戸枠最下段のみが遺存。井戸枠の保存状態は良好で、縦15cm、横5cm、長さ156～158cmのヒノキの角材4本を井桁に組む。内法寸法132cmの正方形をなす。奈良時代初頭に掘られ、中頃に廃絶。

第7表 平城宮跡出土の植物種実（2）

分類群	部位	SE9201 暗褐色粘土	東横 SB7802	西横SB18500	
				掘方	採取
木本					
チョウセンゴヨウ	種子				1
ヤブモモ	核				2
オニグルミ	核				18
ヒメダルミ	核				4
ハシバミ	堅果				1
ハシバミ	堅果	2			1
クリ	果皮	9			94
ウメ	核	2	1		14
モモ	核	8	1	7	34
スモモ類	核				2
サクランボ	核				5
ナシ亜科	種子				3
ナシ亜科	堅果			2	1
センダン	核	1			1
ナツメ	核				3
カキノキ	種子				12
マツ属緑葉系堅果	堅果				4
モミ	核				4
アラカシ	堅果				1
クヌギ	堅果				1
コナラ属	堅果				2
アカガシ亜属	幼果				10
ムクノキ	核				1
サンショウ	種子				3
サンショウ	果実				1
イヌザンショウ	種子				1
ブドウ属	種子				7
バラ属	核				4
バラ属	果実				10
アオウツラフジ	核				3
モチノキ属	種子				10
					4
草本					
イネ	籾殻				1
トウガン	種子				1
メロン仲間	種子			1	154
ヒョウタン仲間	種子				58
ヒョウタン仲間	種子				1
ヒョウタン仲間	果皮				○
ゴキウソ	種子				1
サナエタゲ	果実				1
カヤツリグサ科	果実				5
不明・同定不能					10
					3

第8表 平城宮跡出土の植物種実（3）

分類群	部位	SE17488				SE17505												
		一括	暗灰粘土	灰黒粘土	枠内	掘方				種内								
						一括	一括	一括	一括	木屑層	木屑層	灰緑砂	灰青砂	暗灰砂	暗灰黒粘土			
木本																		
ヤブモモ	核																	
クリ	果皮	1			1				2									
ウメ	核				1													
モモ	核		1		1													
ナシ亜科	種子																	
ナシ亜科	果実	1							2									
ナシ亜科	幼果																	
センダン	核																	
ムクノキ	果実																	
ムクノキ	種子			1	1													
カキノキ	種子																	
カキノキ属	種子																	
コナラ属	堅果																	
コナラ属	幼果																	
コナラ属	殻斗																	
アカガシ亜属	幼果																	
アカガシ亜属	殻斗																	
ブドウ属	種子																	
エゴノキ	核			1														
トチノキ	未熟果																	
草本																		
ヒシ	果実																	
メロン仲間	種子																	
ヒョウタン仲間	種子																	
ヒョウタン仲間	果皮																	
不明・同定不能																		

m、材厚は10～20cmで東西部で厚く、水平断面は東西に長い倒卵形をしている。井筒の年輪年代は養老7年(723)伐採。材の大きさからみて、転用品とは考えにくい。奈良時代中ごろに掘られ、平安時代初頭に廃絶。

井戸枠内埋土からは、ナシ亜科種子を主体として、モモ核、ウメ核、クリ果皮、コナラ属堅果、ブドウ属種子、メロン仲間種子などが少量出土している。また井筒内の木屑層からも、ナシ亜科種子、モモ核、ウメ核、センダン核、ヒヨウタン仲間種子、メロン仲間種子などが出土しており、井戸枠内埋土とほぼ同様の組成を示す(第8表)。

c. 馬寮の井戸

SE6166 馬房と推定した南北棟建物SB5951の西南脇にある井戸。掘方は一辺2.7mの方形で、深さ2.5mあり。ほぼ中央に井戸枠を据える。井戸枠は長さ1.3m、成25cm、厚さ2.5cmの板を蒸籠組したもので、底から10段目までが遺存する。井戸枠内堆積土からは、平城宮土器編年Ⅳ～Ⅴ(以下、平城宮○と略す)に属する土器や斎串、曲物などの木製品が出土しており、奈良時代末まで存続したことは確実である。8世紀後半。

出土層位は不明だが、ブドウ属種子が19点出土している(第9表)。

SE7094 SB3671のすぐ東にある井戸である。掘方は一辺6.8mの方形で、深さ1.7mあり、東北寄りに縦板組の井戸枠が残る。井戸枠は内法で方90cm。埋土は大きく2層に分けられ、主として下部の灰砂層からは10世紀頃の土器類、上部の黒灰色粘土層からは櫛が出土した。

出土種実は、モモ核1点、ヒメグルミ核1点(破片)、スモモ類核2点(破片)がある(第9表)。

e. 東院の井戸

SE16030 一辺約5mの方形の掘方の中に、幅20cm、厚さ10cmのヒノキの板材を縦に20枚並べて円形の井戸枠を作る。周囲には石敷SX16036があり、さらにその周りにSD16031～SD16034の4本の溝を方形にめぐらせる。井戸はSB16035の中央にはなく、東南部に偏る。これらの石敷、石組溝は後の整地土で埋められるが、SE16030は上部に河原石を2段に積んで井戸枠とし、さらに使用が継続する。井戸の掘方からは軒平瓦6721、井戸構築時の整地土から軒平瓦6762が出土した。奈良時代後半に掘られ、平安時代初頭に廃絶。

この井戸の枠内埋土(暗褐色粘土)からは多数の種実が出土している。最も多いのはセンダン核で1241点(破片68点)、次いでセンダン種子54点(破片6点)、モモ核41点(破片15点)、ウメ核39点(破片18点)などが続く。このほか、スモモ類核18点(破片5点)、サクラ属サクラ節核12点(破片5点)、ブドウ属種子10点、クサヤ核7点(破片1点)、オニグルミ核21点(全て破片)、カキノキ種子3点(破片は21点あり)、メロン仲間種子4点(破片1点)、イシミカワ果実18点(破片10点)、タデ科果実13点、ウルシ属・ヌルデ内果皮6点など、食用植物を中心としながら雑草類も含む多様な組成を示す(第9表)。

(2) 土坑

a. 大畷職土坑

SK219 東西3m、南北3.5m、深さ1.0mの北半部と、東西3m、南北2.5m、深さ1.0mの南半部に分かれるが、堆積土に差はなく、同一個体の土器の破片が南北にわかれて出土していることから、南北とも存続、埋没は同時であったと考えられる。土坑内は、埋土と思われる厚さ約40cmの遺物を含まない赤褐色粘土の下に、厚さ20～30cmの灰色砂と厚さ約10cmの泥土があり、その下が粘土質地山の底となる。遺物として楡皮が灰色砂の上面で、木簡、瓦、土器、漆製品、木製品のほとんどが灰色砂中から、少量が泥土中から検出された。土器が明らかに破損したものであることや、土坑の周囲から投げ込んだことを暗示するように同一個体の破片が土坑底と壁面上部に張り付いた状態で検出されていることなどから判断して、この土坑は一時期の塵芥処理のためのものであったと考えられる。出土した木簡は天平宝字7年(762)を下限とする。

出土種実の数量は豊富である。報文(奈文研1962)によると、メロン仲間種子89点(破片31点)をはじめとして、モモ核23点(破片9点)、アンズ核19点(破片5点)、シラカシ堅果19点(破片12点)、イチイガシ堅果14点(破片37点)、ハシバミ果実12点(破片34点)、アブラギリ種子11点、トチノキ堅果8点(破片21点)と続く。このほかに、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、アンズ類核(マンシュウアンズ・モウコアンズ・ネッカアンズ)、カキノキ種子破片、フジ属種子、チャノキ種子、ハス果実、ヒシ果実などが出土している(第9表)。

b. 内裏北外郭土坑

SK820 天平19年(747)を下限とする内容豊富な多数の木簡とともに、保存状況のよい多数の土器、瓦、木製品が出土した。土坑の平面はほぼ方形(方3.8m)を呈しており、底(方3.2m)までの深さは遺構面から1.7m(地表から2.3m)である。土坑の底には樹葉を主体とする暗緑色土層(厚さ5cm)が堆積していた。この層には、木簡をはじめとする若干の遺物を含む。この上には、有機質を大量に含む暗褐色土層(厚さ50cm)が堆積していた。多

量の遺物は、暗褐色土層の全体にまんべんなく含まれており、土層が短期間に形成されたことを示している。暗褐色土層の上には、土坑の上面まで土坑の上面まで赤褐色土層が厚くつまっていた（115cm）。この土層には土器、瓦を少量含むが、堆積状況や砂・礫の混在状況からみて、明らかに穴を埋める目的で人為的に投入されたものである。

出土種実には、メロン仲間種子 52 点（破片 6 点）をはじめとして、ムベ種子 10 点（破片 1 点）、ナツメ核 7 点（破片 1 点）、イネ籾殻 6 点（破片 7 点）、サンショウ種子 4 点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、ハシバミ果実、クリ果皮、モモ核、ナシ亜科種子などが少量出土している（第 9 表）。

SK2101 平面はほぼ方形（東西 3.5 m、南北 3.4 m）の土坑。深さは遺構面から 35 cm である。土坑内埋土は 7 層にわかれるが、大きく上下 2 層に大別できる。すなわち、木簡、木製品、瓦、土器を含む暗褐色土層の上に、遺物を含まない木炭層と灰砂層は覆っており（下層）、穴が埋まりきらずに凹みとして残ったため、ここに土器を捨て、土（黒色砂、暗黄褐色土）で覆ったらしい（上層）。ただし、上下層のそれぞれに含む土器の間には時期的な差異はない。この土坑は、整地土の最上層から掘られており、層的に見て北 3 m にある土坑 SK2102 より新しい。木簡の紀年は天平 18 年（748）から天平勝宝 2 年（749）におよぶ。

出土種実には、メロン仲間 9 点（破片 7 点）のほか、ウメ核、モモ核、スモモ類核それぞれ 1 点ずつある。破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、カキノキ種子、イネ穎などがある（第 9 表）。

SK2102 大土坑 SK2100 の中に掘られた土坑（東西 3.8 m、南北 2.4 m、深さ 0.3 m）である。土坑の底を覆う粘土層（10cm）には遺物はわずかしみられなかった。その上に大量の楡皮・木片からなる有機質（木簡含む）と、粘土塊をまじえた層（20cm）が堆積していた。この土坑は、南に近接する土坑 SK2101 より古い。木簡には、神亀 5・6 年（728・729）の紀年をもつものがある。また、木簡の内容には造営関係の記載があり、この地域の造営にかかわるゴミ処理の土坑とみられることから上記の年代をあまり下らずに埋没したものと考えられる。8 世紀前半か。

出土種実には、モモ核 9 点（破片 7 点）、ウメ核 2 点、オニグルミ核破片 1 点がある（第 9 表）。

c. 玉手門地区土坑

SK1623 玉手門の正面で検出した東西 4 m、南北 4.6 m、深さ 1 m の長方形の土坑。土坑内には周囲から投げ込んだ状況で、5 層にわたる堆積土が確認された。平安時代の土器が出土している。9 世紀か。

出土種実には、オニグルミ核とモモ核が 4 点ずつあるが、いずれも破片資料である（第 9 表）。

d. 東方官衙地区大土坑

SK19189 木屑を主体とする廃棄物の土坑。東西約 11 m、南北約 7 m の不整形で、深さは約 1 m である。土坑の堆積層序は、下から①木屑層、②粘性の強いシルトと細砂の混合層、③礫と粗砂の混合層、粗砂の順である。①は大きく 3 つの単位に分けられ、二度の拡張を経ていると考えられる。②には自然木の堆積が認められ、木質遺物も少量出土しているが、③には土器片や瓦片が多く、木質遺物はごく少ない。②③は土坑のくぼみに形成された堆積で、出土遺物は段階的に投棄されたものだろう。最上層の④は非常にしまりのある褐色土で土坑上面に広がっており、整地土と考えられる。この土坑からは大量の木簡が出土しており、年紀は 770 年代初頭に集中する。

出土種実には、16 層、21 層、22 層に分けて分析されている。いずれも①の木屑層である。16 層では、ナデシコ科種子、チドメグサ属果実、カタバミ属種子などの草本類が多い。少量ながら、ヤマモモ核、イネ穎、メロン仲間種子、エゴマ果実など食用植物も認められる。21 層では、タデ属果実、カタバミ属種子、シソ属果実、サナエタデ果実、ザクソウ種子などが認められ、イネ穎も 19 点認められる。22 層では、ザクソウ種子が多く、ナデシコ科種子、カタバミ属種子、カヤツリグサ科果実、タデ属果実などの草本類が主体である。モモ核も 1 点認められる（第 6 表）。

(3) 柱穴

a. 第一次大極殿院に関連する建物

東棟 SB7802 南門 SB7801 の東にたつ 5 間 (22.9 m) × 3 間 (11.52 m) の総柱南北棟建物。柱間寸法は桁行 4.58 m (15.5 尺) 等間、梁行は 3.84 m (13 尺) 等間である。総柱のうち、側柱は掘立柱であり、内部の柱を礎石建てとする。柱掘方は 3.5 m × 2.5 m の長方形を呈し、深さは 2.75 m という超大型である。ハ一柱穴を除いて、漏斗状の柱抜取痕跡がある。イ・ニの柱列は抜取痕跡が連続する。掘方埋土は地山の砂質土であるが、抜取痕跡には、瓦、土器、木器など遺物が比較的多く堆積する。一部の抜取痕跡には、柱根を支えた角材 (17cm 角) の断片が 2 本ずつ残る。また二四の抜取痕跡には径 75cm の柱根が倒れており、それには貫穴が 2 か所あって、1 か所には支えの角材をなとどめている。礎石掘付痕跡は、方形掘方 (方 2.7 m、深さ 15cm) の中心に於たる位置に、径 1 m 程度の根固めの礫が散布する状態で残る。SB7802 は、南面築地回廊の中層礎敷の改修時期に増築されたもの。柱抜取痕跡から出土した木簡によって、この建物は天平勝宝 5 年 (752) 以後に廃絶したことがわかる。

出土種実には、モモ核7点(破片5点)、ナシ亜科果実破片2点がある(第7表)。

西棟 SB18500 大極楽院の南門 SB7801 の西側、南面築地回廊 SC7820 の北側に取りついて建つ総柱建物。桁行5間、梁行3間の東西棟建物で、側柱のみを掘立柱とし、そのほかの柱を礎石建とする。南門の東側 SB7802 と対応し、ほぼ同じ構造をとる。掘立柱は基本的に東西に長大な抜取穴を有しており、直径が大きい柱を使用していたようである。抜取穴は一方の先が細くなる茄子状の長円形を呈し、南北幅が3.5m程度であるのに対して東西幅は6~9mにおよび、隣の抜取穴と連結している。深さは2.4~3mで漏斗状を呈しており、底辺で幅が70~90cmとなる。柱掘方は、上半部は抜取穴で破壊されるが、下半部は残存する。柱掘方の規模は一辺2.5m~3mの長方形であり、東西に長いものや南北に長いものなどがあって一様ではない。内部の柱の礎石はすべて抜き取られており、ハ列では抜取穴が大きく、掘付穴をとどめないが、ロ列では比較的良好な状態で掘付穴を確認できる。

掘立柱の抜取穴の埋土は、下半は単位が厚く、その上から細くなる傾向がある。上半の細かい土層には木製品や木簡を大量に含むものがあり、最初に一気に埋め立てた後、廃棄土坑としても使いつつ、徐々に埋めていった様子が見られる。出土木簡の年紀には、天平19年(747)から天平勝宝5年(753)のものがある。

植物種実には、そのほとんどが抜取穴から出土した。メロン仲間種子154点(破片58点)をはじめとして、モモ核34点(破片20点)、ウメ核14点(破片24点)、カキノキ種子12点(破片6点)と続く。このほかヤマモモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、センダン核、ナツメ核、マツ属複雑維管束亜属球果、コナラ属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、イヌザンショウ種子、バラ属核、バラ属果実、イネ稗穀、トウガン種子、ヒョウタン仲間種子、ゴキツル種子、サナエタデ果実、カヤツリグサ科果実などがある。また破片資料として、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、ハシバミ堅果、ナシ亜科果実がある(第7表)。

3. 排水路・溝状遺構

(1) 基幹排水路

西大溝 SD3825 (315次) 佐紀池に源を發し、南に流れる排水路。位置はおおむね、平城宮の南面西門である若犬養門と、朱雀門との中間にあたり、宮西部の基幹排水路として機能していたと考えられる。奈良時代前期(1期)に開削され、奈良時代末(Ⅱ期)に埋没する。幅2.6m~3m、深さ1.1mの素掘溝で、堆積土は下から大きく、灰白色砂・暗黒色砂・白斑暗黒色粘土・暗黒色粘土・灰色砂・白色砂の6層に分かれる。暗黒色砂には大量の木屑を含んでいた。暗黒色粘土~白色砂は奈良時代後期(Ⅱ期)の土層である。溝はこの時期に堆積が進み、最後には幅0.8m、深さ0.2mほどに狭まっている。それも奈良時代末には埋没し、機能が停止している。

出土種実として、メロン仲間種子46点(破片1点)、センダン核6点(破片7点)、モモ核4点(破片3点)などがある。

SD3825A 溝幅は最大で1.8m残存。Ⅰ-1期に構築され、Ⅰ-2期に埋め立てられる。奈良時代前半。

出土種実には、メロン仲間種子46点のほかは、ナシ亜科種子2点、カキノキ種子1点、オニグルミ核破片1点のみである(第10表)。

SD3825B 園池 SG8190 の南東隅の岸に、SD3825A から東に70cmずらして取水口を造る。溝底は取水口付近で、SD3825A よりも約60cm高い。埋土は暗褐色粘土で平城宮Ⅳの土器が出土している。Ⅰ-2期からⅡ期の造営まで存続。奈良時代前半から後半。

出土種実の数量は、A~Cの中で最も多い。最も多いのはメロン仲間種子で296点(破片4点)、次いでセンダン核60点(31点)である。その他の分類群として、オニグルミ核、クリ果皮、ツブラジイ堅果、モモ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、マツ属複雑維管束亜属球果、アラカシ堅果、コナラ亜属堅果、ガマズミ属核、キカラスウリなど多様だが、いずれも3点以下破片資料である(第10表)。

SD3825C 堤 SX18255 の改修とともに、園池 SG8190 から取水口を東に付け替えたもの。埋土は灰色砂もしくは黒色粘土。平城宮Ⅳ~Ⅴの土器を含む。奈良時代末まで開口。

出土種実には、センダン核とメロン仲間種子が多く、それぞれ124点(破片73点)、77点(破片3点)ある。このほかにモモ核11点(破片8点)、マツ属複雑維管束亜属6点、アラカシ堅果、カキノキ種子破片2点などがある(第10表)。

SD3715 第一次大極楽院と内裏の間を流れる南北溝。これまでの調査(第41次・第157次)では、北は推定大膳職地区の北端から、南は平城宮南面大垣の南、二条大路北側溝にいたることが確認されている。幅2~6mの素掘溝で、深さは2m。東面築地回廊心より東に約36.5mを北から南に流れる。兵部省西側では埋土の状況から3時期の変遷を確認したが、第一次大極楽院周辺では2~3層に区分できるものの、遺物の逆転が見られるため、時期区分は困難である。遺構全体を通して記置と渡梁が繰り返されたようである。開削の時期は養龜年間(715~720)と

1点ずつある(第10表)。

東大溝 SD2700 (139次) 上幅2.0m、底幅0.9m、深さ1.4mの規模で、人頭大の玉石を6~7段積んで護岸とした石組溝。堆積層は、石組の底面から上がさらに5層に分けられ、最下層に養老7~天平4年、下から2層目に神亀3~天平9年、4層目に天平宝字4~6年の紀年木簡が出土しており、最上層からは「天応」銘をもつ墨書土器が出土した。

主に植物種実が出土しているのは、灰砂②層と暗灰粘土層である。前者では、メロン仲間種子552点、モモ核22点(破片6点)、ナス属種子21点(破片17点)、キケナム属種子55点のほか、チョウセンゴヨウ種子(破片)、ウメ核、ムベ種子、サンショウ内果皮、タデ科果実などが出土している。後者では、モモ核10点(破片2点)、カキノキ種子6点(破片3点)、ナス属5点(破片1点)のほか、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ウメ核、スモモ類核、キイチゴ属核、センダン核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、メロン仲間種子、タデ科果実などが出土している(第11表)。

東大溝 SD2700 (172次) 東側は異質護岸、西側は素靴のままである。堆積層は大きく6層に分かれる。下から、①層は石積構築前の素掘りの時期に当たり、溝幅は5~6m、深さ1.6~1.8m。②層は素掘り溝の東岸を西に狭めた石積構築後の堆積で、溝幅は4~5m、深さ1.2~1.4m。③層は瓦を多量に含む土で溝の西半埋め立てて護岸としたもの。これによって溝幅は3~3.5m、深さ1m足らずに縮小。④の堆積により溝埋没。その後、東岸沿いに幅約0.6~0.8m、深さ0.3~0.4mほど掘り込んで細溝に改修し、⑤、⑥によって埋没。①からは神亀元年~養老7年、②層からは天平から天平宝字年間、③④層からは天平勝宝~天平宝字年間の木簡。石積構築は天平年間前後、西岸を瓦で護岸したのは天平宝字年間前後、細溝に改修したのは奈良時代末。

植物種実は各層で出土しているが、そのうち灰砂、木屑層、灰濁砂層での出土数量が多い。これらの層に共通して多いのはモモ核で、それぞれ1139点(破片757点)、466点(破片286点)、2005点(破片1185点)である。そのほかの分類群は各層でばらつきがある。灰砂層では、モモ核に次いでウメ核174点(破片24点)、ヒメグルミ核67点(破片105点)、センダン核40点(破片18点)となり、木屑層では、メロン仲間種子が466点(破片29点)、ウメ核52点(破片7点)、ナス属種子17点(破片1点)となる。灰濁砂層では、ウメ核229点(破片48点)、センダン核172点(破片42点)、スモモ類25点(破片9点)などと続く。このほか、カヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ核、クリ果皮、ナシ亜科果実、ナツメ核、カキノキ種子、アキグミ種子、アカマツ球果、スズメウリ種子、カナムグラ種子など多様である。その他の層でも、例えば灰白バラス層では、ナス種子が254点出土しているほか、アンズ核も1点ある(第11表)。

SD3410 東面大垣 SA4340の西側を北から流れる宮内基幹排水路。幅6~7.8m、深さ1.1~1.3m。SD3410にかかる橋状遺構 SX17640以南では溝西岸が東に寄り、溝幅が狭まる。溝の堆積は上下2層に大別でき、上層の茶灰濁砂質土は平安時代以降の堆積。下層が奈良時代の堆積土で、幅5.3m、深さ0.65~0.8m。3~4期に区別できる。堆積土は、おおむね下から灰濁バラス、暗灰粘土、暗灰濁粘質砂、暗灰粘質土、暗灰砂質粘土(白色粒、木屑含む)、白色粒混黒灰粘土(木屑含む)である。この溝は何度も改修を受け、平城遷都当初の堆積は残存しない。溝最下層の年代は、瓦や木簡から奈良時代後半と考えられる。最下層は素掘りだが、以後に小礫混茶灰濁粘質土や小礫混灰色粘質土を用いて溝幅を狭め、SX17640以南では幅3.4m、深さ0.8m、同様に北では幅約4m、深さ約0.6mの規模となる。原位置を保つ護岸石の東岸の一部で確認しており、兩岸に石積護岸を施したと考えられる。

植物種実は砂礫層から多く出土している。メロン仲間種子が2342点と最も多く、トウガン種子57点、ウメ核27点(破片4点)、センダン核19点(破片1点)、ヤマモモ核14点と続く。このほか、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果皮、ツツライジ堅果、モモ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、カキノキ種子、アラカシ堅果、コナラ属堅果、サンショウ種子などが出土している(第12表)。

SD17650 東面大垣を切り込むかたちとなって開渠で抜け、宮内基幹排水路 SD3410 から東一坊大路西側溝 SD4951 に注ぐ東西溝。水は西から東に流れる。南面大垣へ抜け、二条大路北側溝へ流れる SD3410 の水量軽減のための分水路と考えられ、3時期の変遷がある。SD17650A は当初の素掘り溝で、幅5.5m、深さ1.5m。堆積土から須恵器 B 蓋(平城宮1)が出土した。17650A を埋め立て、幅を約2.9mに狭めた溝が17650B で、築地横断部分の北岸で護岸石、南岸で護岸石採取痕を検出した。

植物種実は、木屑層と砂礫層で多く出土している。数量の多い砂礫層を見ると、メロン仲間種子477点、コナラ属堅果17点(破片51点)、モモ核12点(破片4点)、カキノキ種子9点(破片2点)、クリ果皮破片243点などと続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ハシバミ堅果、シイノキ属堅果、ウメ核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科果実、アケビ属種子、ナツメ核、マツ属複雑管束亜属球果、トウガン種子、オナモミ果実

第12表 平城宮跡出土の植物種実(7)

分類群	部位	SD3410		SD17650				
		砂礫層	砂礫層 植付近	木屑層	砂礫層	黒灰土	灰褐色砂	しがらみ
木本								
カヤ	種子	1			3			
チャウセンゴボウ	種子			1	1			
ヤマモモ	核	14						
オニグルミ	核	4		1	1			
ハシバミ	堅果				2			
クリ	果皮	17		46	243	4		30
ツブラジイ	堅果	5	14	2	8	9		3
スダジイ	果実			3				10
シイノキ属	堅果				3	14		
ウメ	核	25	3	2	1		1	
モモ	核	4	12	1		12	4	1
スモモ類	核	2	1					
サクラ属	核	2		1		4		
サクラ属	核			1				
ナシ亜科	種子	2		1	1	1		
センダン	核	15	1	4				
アケビ属	種子			1	6		1	
ナツメ	核			1	4	7	1	1
カキノキ	種子	1	8	2	2	1	9	2
マツ属複雑管束亜属	球果				1		1	
アラカシ	堅果	1		3				
コナラ属	堅果	2	4			17	51	
アカガシ亜属	殻斗	1						
マメ科	種子				○			
サンショウ	種子	1						
草本								
ヒシ	果実		1					
トウガン	種子	56	1		1			
メロン仲間	種子	1008	1336	406	3	477	11	112
ヒヨウタン仲間	種子		1		1			
ヒヨウタン仲間	果皮		○			○		
オナモミ	果実				1			

などが出土している(第12表)。

(2) その他の溝

a. 第一次大極殿院周辺の溝

SD5575 第一次大極殿院東面回廊 SC5500 の東南落溝。一部でしか痕跡をとどめていない。幅 65cm、深さ 20cm の素掘溝。若干の砂を混える黄褐色土が堆積している。奈良時代前半。

出土種実は、メロン仲間種子が 18 点(破片 3 点)あるほかは、クリ果皮やハシバミ堅果の破片資料である(第13表)。

SD5505 東から基幹排水路 SD3715 に注ぐ東西溝(幅 2m、深さ 50cm)。水流の激しさを示すように合流点が著しく氾濫している。この溝の堆積土から平城宮Ⅲの土器が出土した。奈良時代前半から中ごろ。

出土種実は、クリ果皮とモモ核で、いずれも破片資料である(第13表)。

b. 朱雀門周辺

SD1900 朱雀門北南北道路 SF1950 西側溝。時期を違えて A・B が重なっている。A は幅 2.6 ~ 3.0m、深さ 0.6 ~ 0.8m の大規模な溝。砂あるいは砂質土が数層堆積し、調査地域のほぼ全域から多量の土器が出土した。この SD1900A は、朱雀門基礎築成時に断ち切られており、宮造営前の溝(下ツ道)である。造営後、SD1900B として再使用される。7 世紀後半から 8 世紀前半か。

植物種実として、メロン仲間種子が最も多く 65 点出土しており、次いでマツ属複雑管束亜属球果 6 点、モモ核 5 点、スモモ類核 1 点と続く(第13表)。

c. 造酒司周辺

SD11600 宮内道路 SF11514 の南側溝。現状で約幅 5m、検出面から深さ約 1m という大規模な溝。北から SD16742、南から SD16741 が取りつく。埋土より木屑約 2500 点が出土した。木屑の年紀は、延暦元年(782)と 3 年(784)があり、長岡京遷都直前の年紀を示す。

植物種実は多数出土している。各層位のうち最も多く出土した木屑層(木屑含む)からは、メロン仲間種子が 208 点(破片 7 点)と最も多く、以下モモ核 34 点(破片 39 点)、ウメ核 13 点(破片 6 点)、センダン核 12 点、スモモ類核 7 点(破片 2 点)、サクラ属サクラ節 7 点、カキノキ種子 6 点(破片 4 点)と続く。このほか、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、アズキ核、ナシ属果実、ナシ亜科種子、トウガン種子な

第13表 平城宮跡出土の植物種実 (8)

分類群	部位	第一次大塚院跡周辺			造西司東西道路周辺					朱雀門北 南北道路 西側溝 SD1900	
		SD5575 3砂	SD5505 暗灰粘土	SD18220 灰色砂	小塚遺跡	暗灰粘	木屑層	灰褐色砂	木屑層		SD16742
木本											
ヤマモモ	核									1	
オニグルミ	核			3	19	1	35	10		1	
ヒメダルミ	核						25				
ハンバシ	堅果	3	09	5						1	
クリ	葉実						2				
クリ	葉皮						147			11	
クリ	カット						112			43	
ツブラジイ	堅果						2				
スダジイ	葉実									1	
シイノキ属	堅果						1	8			
アンズ	核						1	1			
ウメ	核					1	13	6	4	1	5
モモ	核						34	39	11	17	4
スモモ類	核		1	1	1		7	2			1
サクラ属	核					1	7				
ナシ属	葉実						1				
ナシ亜科	種子						1				
ナシ亜科	葉実			1	1		1				
センダン	核						12		11		
ナツメ	核						5				
カキノキ	種子						6	4	2	2	
マツ属複雑管束亜属	球果										1
マツ属複雑管束亜属	種子										6
コナラ属	堅果						5	1			
アカガシ亜属	殻斗						1				
ブナ科	堅果						1				
クスノキ	種子						1		1		
サンショウ	種子					1					
草本											
トウガン	種子						2		1		
スイカ	種子										
メロン仲間	種子	18	3	28	2	2	208	7	19	2	9
ヒヨウタン仲間	種子						1		1		
ヒヨウタン仲間	葉皮							○		○	
不明・同定不能							1	1			○

どが出土している (第13表)。

SD16742 宮内道路SF11514を横切る南北溝。幅約3.5～4.5m。SD16731とSD16745が取りつく。奈良時代。植物種実には、メロン仲間種子9点、ヤマモモ核1点、モモ核1点(破片4点)、オニグルミ核破片がある(第13表)。

II 平城京跡出土の植物種実

1. 平城京跡植物種実出土遺構の概要

ここで対象とするのは、平城宮を除く平城京跡で出土した資料である。平城宮跡と同様に、豊富な植物資料が得られている。特に、長屋王家木簡や二条大路木簡で著名な平城京左京二条二坊、三条二坊の各遺構出土資料や、西大寺食堂院の井戸出土資料、そして条坊側溝の出土資料は、奈良時代の植物利用の実態を知る良好な資料群である。ただし、その他の資料と同様に、ほとんどの場合細かい目の篩を用いた定量的な分析がおこなわれておらず、小型の種実については情報が欠落している資料も多い点に注意されたい。なお、調査対象遺構の位置は、第6図に示した。

2. 井戸・土坑

(1) 井戸

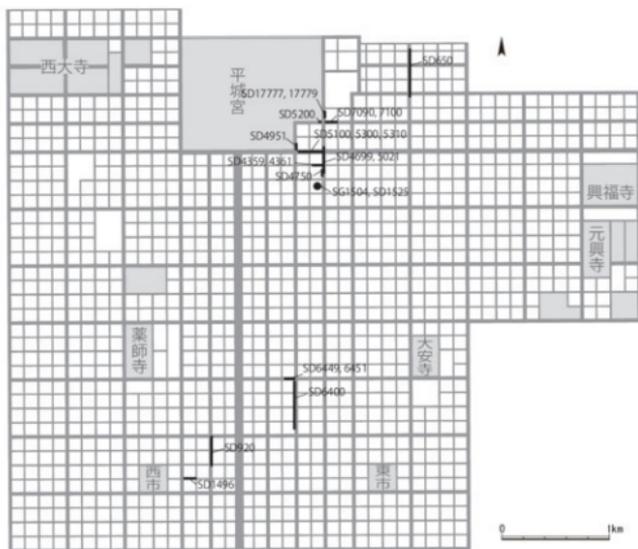
a. 左京二条二坊

189次SE40 十四坪。直径2.4m、深さ2.8mの円形の掘方をもつ。井戸枠は円形縦板組で、縦板側面の上部と下部を太枠で固定している。掘方最上層はバラストと砂で固め、さらにその上は一辺10尺の正方形の瓦敷きである。井戸枠の埋土は、最下層に水の濾過用の木炭が厚さ15cm敷かれる。その中から地鎮具として使用された萬年通寶とガラス玉が出土した。木炭層の直上には「酒」と墨書された奈良時代末期の土器が廃棄される。さらにその上には楡皮、畜串、木簡を含む木屑層と瓦層がある。

出土種実として、モモ核が10点(破片4点)、ウメ核1点、破片資料としてオニグルミ核がある(第14表)。

b. 左京三条二坊

SE4116 七坪。敷地の東南隅にある井戸。SE4117と重なり、これより新しい。掘方の径2.5m、深さ2m程度で、井戸枠は縦板組である。四隅に角材を立てて、横枿を入れ、一辺に縦板4枚程度を立てている。埋土から平城宮Ⅲ～



第8図 平城京における報告対象遺構位置図（上：井戸・土坑 下：溝・溝状遺構）

第14表 平城京跡出土の植物種実(1)

分類群	部位	SE40		SE4116 SE4217		SE4225	SE4268	SE4340	SE4365		SE4366	SE4380
		189次 E層	SE40 F層	SE4116 砂内埋土	SE4217 砂内	SE4225 下層	SE4268 最下部	SE4340 砂内埋土	SE4365 灰土層	SE4365 灰土層	SE4366 埋灰土	SE4380 砂内埋土
木本												
カヤ	種子			2								
オニグルミ	核		1	8		6		1				
ヒメグルミ	核								1			
クリ	果実			10		14					5	2
ウメ	核	1	1	1				1				
モモ	核		10	4	45	42	1	1	16	1	1	1
センダン	核											
ナツメ	核											
マツ属復雑管束亜属	果実			1	1							
アラカシ	果実			1								
草本												
ヒョウタン仲間	果実			○								

分類群	部位	SE470		SE5140		SE5135	SE5205
		埋灰土	黒灰砂	底	層方	灰土層	砂内埋土
木本							
カヤ	種子	6	4				
チャウセンゴボウ	種子			1			
オニグルミ	核	2	18	44	8	1	24
ヒメグルミ	核	21	32			1	1
ハンパミ	核					1	
クリ	果実	20	11			2	
ウメ	カット					1	
モモ	核	112	22	126	26	12	8
スモモ類	核			8	4	1	3
トチノキ	種子	8	7				
草本							
ヒョウタン仲間	果実			○			

分類群	部位	SE900	SE1305	SE1315	SE1335	SE1345	SE1385	SE1530	SE1867	SE1890
		層方	最下層	灰土層	層方	一層	層方	最下層	灰土層	底層
木本										
オニグルミ	核									1
ハンパミ	果実			12				1		
クリ	果実						12			
アンズ	核									
ウメ	核								3	2
モモ	核	1		1	1	1	2	2	1	97
スモモ類	核								83	22
センダン	核								4	4
草本									1	
オナモミ	果実								20	1

分類群	部位	SE1550				SE1555		SE1560	SE6432		SE6657	SE491
		1層	2層	3層	4層	一層	灰土層	下層砂	一層	埋灰土	層方	砂内
木本												
ヤマモミ	核											1
オニグルミ	核							1				4
ヒメグルミ	核									4		1
クリ	果実									25		1
アンズ	核											
ウメ	核	1			1							
モモ	核	7	44	13	10	29	2	6	18			
スモモ類	核											
ナシ亜科	種子											
ナシ亜科	果実											
センダン	核											
ナツメ	核											
カキノキ	種子											
マツ属復雑管束亜属	果実											
コナラ属	果実											8
草本												
トウガン	種子										1	
メロン仲間	種子											4
オナモミ	果実											100<

Vの土器が出土している。奈良時代末まで存続する。

植物種実では、モモ核が最も多く45点(破片42点)、ナツメ核、マツ属復雑管束亜属球果、アラカシ堅果が1点ずつ出土している。このほか破片だが、カヤ種子、オニグルミ核、クリ果実、ウメ核も出土している(第14表)。

SE4217 七坪。西南寄りにある井戸。掘方は検出面で径2mのほぼ円形で、井戸枠は曲物を2段重ねている。曲物の径は下段が65cm、上段が73cm、両者の間に楔を入れて止めている。掘方から平城宮Ⅲ、井戸枠内埋土から平城Vの土器が出土している。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実ではモモ核が1点(破片1点)のみである(第14表)。

SE4225 七坪。SB4221のすぐ北にある井戸。掘方は径1.2mの円形、深さは1.4m。中に曲物を積んだ井戸枠

を置く。曲物は径45cmと50cmで、高さが50cm程度のを2段重ね、さらに上段の内部に一回り小さく高さ30cmの曲物を2段積んでいる。埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代末に廃絶。

出土種実、モモ核が16点(破片1点)のほか、破片資料としてオニグルミ核、クリ果皮がある(第14表)。

SE4268 八坪。SB4269の西にある井戸。掘方の径2.8m、深さ2.1m。井籠組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺1.2m、板の幅は20～25cm、厚さは3cm前後であり、8段組み上げる。B期(奈良時代前半)のSB4270の柱掘方を切っている。掘方から平城宮Ⅲ～Ⅴ期の土器が、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実はモモ核が1点(破片1点)のみである(第14表)。

SE4340 七坪。SB4400の東にある井戸。掘方は検出面で径1.5mの円形、0.7mから下は径0.65mで、全体の深さは1.6mある。井戸枠は掘方の大きい上部では縦板組、下部は掘方にほぼ沿わせて、曲物を4段に積み上げている。掘方から平城宮Ⅲの可能性のある土器、埋土から平城宮Ⅳの土器や硯が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、井戸枠内埋土からモモ核14点(破片5点)、ウメ核1点のほか、破片資料として、クリ果皮、オニグルミ核がある。また井戸最下部から、モモ核10点(破片2点)が出土している(第14表)。

SE4365 七坪。SE4185の東北にある井戸。掘方は径1.9m、深さ1.8m。井戸枠は一辺70cm程度の縦板組。四隅に角材を入れ、横棧で繋いで、縦板を打ち込む構造であるが、崩壊が著しい。掘方から漆器や小型素文鏡、平城Ⅲの土器、埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代後半。

出土種実として、枠内埋土からモモ核15点(破片6点)、センダン核2点、ウメ核1点がある。また破片資料として、オニグルミ核が認められる。なお、抜取穴からもモモ核1点(破片1点)が出土している(第14表)。

SE4366 七坪。内郭東辺側の東方にある井戸。掘方は底で約1.5m角のほぼ正方形で、深さが1.7m。底面に礫を敷き、横板組の井戸枠を入れる。井戸枠は、長さ110cm、幅60cm、厚さ4.5cmの板4枚を井籠組に組んで正方形にしたもの。井戸枠は最下段のみが残り、それより上は抜き取られている。抜取穴は東西2.7m、南北3m、深さ1mと、掘方よりも大きい。A期。井戸枠の抜取穴から、平城宮Ⅱに属する猿の絵を描いた土師器が出土している。奈良時代前半。

植物種実には、暗灰粘土から出土したモモ核4点、ヒメグルミ核の破片がある。また抜取穴からモモ核1点、クリ果皮の破片が出土している(第14表)。

SE4380 七坪。SE4365の北にある井戸。掘方は上部では、径1.75mの隅丸方形であるが、20～30cmの深さで井戸枠ぎりぎりの大きさに狭める。深さは1.3mある。井戸枠は縦板組で四隅に角柱を打ち込み、横棧を3段入れ、棧の間隔より若干長い縦板4～5枚を棧の位置で重ねながら組み上げている。井戸埋土から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。掘方はSD4165を切って掘り込んでいる。奈良時代後半。

植物種実として、井戸枠内埋土からモモ核が1点のみが出土している(第14表)。

SE4770 八坪。内郭の塙の東北隅から約25m東北にある井戸。東西2.2m、南北2mの隅丸方形で、深さは1.8m。井戸枠は抜き取られて、層状に埋土が堆積している。その中ほどに木屑層があり、そこから「長屋皇宮」「若翁帳内」などと記した木簡226点が出土した。木簡の紀年より養老元年(717)をさぞ降らぬ頃に廃絶したと考えられる。

出土種実は、周辺の他の井戸と比較して豊富である。埋土である暗灰粘土と黒灰砂の出土数量を合わせると、最も多く出土しているのはモモ核で238点(破片48点)、次いでスモモ類核15点となる。またオニグルミ核が2点(破片62点)、破片資料だが、カヤ種子、ヒメグルミ核、クリ果皮、トチノキ種子が出土している(第14表)。

SE5135 一坪。SB5050の西南にある井戸。掘方は1.9mのほぼ円形で、深さ1.9m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約1.1mで、四隅に角材を立て、横棧2段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実は、井戸底からモモ核12点(破片8点)のほか、破片資料としてチョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核がある。また、掘方からモモ核4点(破片1点)、クリ果皮が出土している(第14表)。

SE5140 一坪。SB5050の西南にある井戸。掘方は径1.9mのほぼ円形で、深さ1.9m。中に縦板組の井戸枠を組む。井戸枠は一辺約1.1mで、四隅に角材を立て、横棧2段を入れて外に縦板を置く。掘方から平城宮Ⅲ新の、埋土から平城宮Ⅴの土器が出土している。奈良時代中ごろにつくられ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、いずれも破片だが、モモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果がある(第14表)。

SE5205 八坪。東端にある井戸。掘方は径2.5m、深さ2.2m縦板組の井戸枠をもつ。井戸枠は一辺80cm、四隅に10～15cm角の角材を立て、60～75cm間隔で横棧を入れた縦板3枚ずつを立てる。埋土から平城宮Ⅴの土器が

出土している。奈良時代末に廃絶。

出土遺物として、井戸枠内埋土からモモ核3点のほか、破片資料としてオニグルミ核、ヒメグルミ核がある(第14表)。

c. 左京七条一坊

SE6432 十六坪北東部の井戸。西側溝西岸の西12.5m、北築地雨落溝から46.5mにある。SB6536から東へ22m、SD6430の延長線から北へ6mに位置する。掘方は直径4m、深さ1.6mで、一辺84cmの縦板組の井戸枠が残る。掘方から平城宮Ⅱ、枠内から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土。奈良時代前半につくられ、中ごろに廃絶。

井戸枠内埋土から、モモ核、ナシ亜科種子、トウガン種子が1点ずつ出土した。また、掘方からも、モモ核48点のほか、ウメ核とスモモ類核が1点ずつ出土している(第14表)。

SE6561 十六坪南西部の井戸。SA6541から西へ9m、北小路北側溝から16.5mに位置する。掘方は南北2.7m、東西3.0m、残存深さ2.0mである。ヒノキの削抜井戸枠が残り、直径80cm、残存長183cm、厚さ3～4cm。井戸底は自然木を含む灰色砂、裏込土は灰緑色粘混灰白色砂である。裏込から平城宮Ⅴ、井戸枠から平城宮Ⅴ～Ⅶの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初期に廃絶。

植物種実として、枠内下層埋土から、ツバキ属種子2点(破片1点)とヤブツバキ効果1点が出土した(第14表)。

SE6657 十六坪北西部の井戸。北面築地南雨落溝想定位置から10m、東小路東側溝から18mに位置する。SB6645から北に18.5m(60尺)離れる。掘方は東西2.5m、南北2.4m、残存深2.7mである。縦板、木箱、曲物を組み合わせた井戸枠が残る。最下部は底板を抜いた曲物で、径55cm、高さ42cm、厚さ0.5cmである。この上に一辺60cm、高さ40cmの方形の木製柵を底板を抜いて載せている。最上部は平面が正方形の縦板組で一辺65cm、残存高さ1.6m。井戸枠内埋土から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器、井戸採取穴から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に掘られ、平安時代初期に廃絶。

出土種実には、ナシ亜科種子15点、モモ核11点(破片10点)、スモモ類核7点(破片5点)、ウメ核5点(破片1点)、メロン仲間種子4点(破片1点)、センダン核4点のほか、ナツメ核、カキノキ種子、ヤマモモ核がある。また、破片資料として、オニグルミ核、クリ果皮、コナラ属堅果が出土した(第14表)。

d. 石京八条一坊

SE1305 十三坪の東南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土最下層から、クリ果皮(破片)が12点出土している(第14表)。

SE1315 十三坪の西南隅に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土(灰黒粘土)および掘方から、モモ核が1点ずつ出土している(第14表)。

SE1335 十三坪の西辺南方に位置する井戸。掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

モモ核(破片)が1点出土している(第14表)。

SE1365 十三坪の中央南寄りに位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅳ～Ⅴの土器が出土した。井戸屋形SB1364をもつ。奈良時代末に廃絶。

掘方からモモ核1点(破片1点)が出土している(第14表)。

SE1385 十三坪の中央西寄りに位置する。東西崩SA1371のすぐ北にあり、十三坪の西平を南北に二分する線上にある井戸。掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

埋土からモモ核2点(破片2点)、クリ果皮の破片が、井戸底からモモ核1点、ハシバミ核1点が出土している(第14表)。

SE1530 十四坪の東南隅に位置する井戸。SA1537のすぐ北にあたる。敷地が1/32町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。SE1530はⅠ・Ⅱ期の築地の位置にあたり、築地が完全に崩壊し、代わりにSA1527が建てられたときに掘られたと考えられる。井戸掘方から平城宮Ⅰ～Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実には、埋土にモモ核97点(破片は83点)、オナモミ果実20点(破片1点)、スモモ類核4点、ウメ核3点(破片2点)、センダン核1点があり、井戸底の堆積土からは、モモ核22点(破片4点)、ウメ核1点が出土した(第14表)。

SE1550 十四坪の西南に位置する井戸。SA1548のすぐ北にあたり、SA1548より西の区画の東南隅に近い位置

にある。井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代末に廃絶。

埋土が1層から4層に分けられている。いずれの層からもモモ核が最も多く出土しており、3層では29点(破片2点)、4層からは6点(破片18点)が出土している。また、1・3層からはウメ核が1点ずつ、1層からはスモモ類核も1点出土している。このほか、一括資料だが、アズキ核、センダン核も出土している(第14表)。

SE1555 十四坪南区の東北に位置する井戸。SA1556のすぐ南にあたる。敷地が1/32町とすると、宅地の東南隅に位置することになる。井戸掘方から平城宮Ⅱの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅲ～Ⅴの土器が出土した。奈良時代前半に掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として、埋土からモモ核15点(破片7点)、オニグルミ核の破片が出土している。また一括資料にスモモ類核やウメ核の破片がある(第14表)。

SE1560 十四坪南区の東南隅に位置する井戸。敷地が1/16町とすると、宅地の東北隅にあたる。井戸掘方から平城宮Ⅱ～Ⅲの土器が出土し、井戸枠内から平城宮Ⅴの土器が出土した。奈良時代中ごろに掘られ、奈良時代末に廃絶。

出土種実として最も多いのは、モモ核168点(破片76点)で、他を圧倒している。このほかウメ核5点(破片2点)、センダン核1点のほか、破片資料として、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮がある(第14表)。

SE1867 十四坪北区の中央に位置する井戸。井戸枠内から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器、奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、井戸枠の横棧の間からモモ核12点(破片4点)とオニグルミ核の破片が出土している(第14表)。

SE1880 十四坪北区の中央西寄りに位置する井戸。まわりを大規模な土坑群に囲まれる。掘方が南のSE1870と重複するが、重複関係からSE1880のほうが新しい。掘方から平城宮Ⅰ～Ⅲの土器、奈良時代中ごろに廃絶か。

植物種実として、埋土からモモ核5点(破片6点)が出土している(第14表)。

f. 西隆寺の井戸

SE491 当初、横板の、いわゆる蒸籠組と呼ばれる構造の井戸(A)を、後に内側に縦板組を添えて改修している(B)。掘方は一辺3.6m前後の隅丸方形。深さは検出面から2.4mである。若干の木製品および延喜通寶の他に、埋土からは多量の土器が出土した。9世紀後半の緑釉陶器片を含む。採取穴と井戸底の土器類はほぼ同時期のもので、延喜通寶の年代よりもさらに新しい。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子が100点以上出土しているほか、ウメ核1点、マツ属複雑管束東亜属1点(破片22点)、破片資料としてオニグルミ核、モモ核が出土している(第14表)。

e. 西大寺食堂院の井戸

SE950 井籠組の井戸。井戸の平面は方形で、内法は一辺約2.3m。遺構検出面からの深さは約2.8m。井戸枠は横板材5段分が残存し、上部は抜き取られていたが、井戸の内部から井戸枠と見られる木材が出土しており、6段以上存在したとみられる。井戸底に浄水用として直径3cm前後の円鏝を敷き詰め、その上に木炭を敷く。掘方は東西に長い楕円形で、大きさは南北約5.4m、東西約6.6mである。井戸本体は掘方西寄りに設置されており、底部は井戸枠が収まる程度の幅しかない。掘方の埋土は粘質土で、最上部は黄色土を層状に固め、丁寧に埋められている。井戸内の遺物は、上からaからeまでの5層に分けて取り上げたe層は灰色の粘質土で、瓦を含むが比較的遺物が少ない。D層は多量の遺物を含み、木屑層とともに互層をなす。木屑の大半はここから出土した。c、b、a層と徐々に埋土のしまりが良くなり、木質遺物の量が減り土器の割合が増える。以上より、井戸は、廃絶後食堂院で不要となったゴミを投棄することによって、上部まで埋まったとみられる。なお、a層上面には焼けた痕跡が認められた。またe層上面に井戸枠とみられる部材が落ち込んでいたことから、不要物の投棄が始まるころに井戸枠が抜き取られていたと考えられる。投棄の開始から終了までの時間は、bからd層まで珪藻類が検出されているため、数週間程度要したと考えられる。埋土の遺物は、奈良時代末を下限とし、最新の年紀である延暦11年(792)からほどなく、8世紀末に廃絶したと考えられる。

京内の井戸のうち、植物種実が最も豊富に得られた井戸である。回収された植物種実は83分類群、10万点以上におよぶ。種実写真は第9・10図に示した。井戸枠内埋土最下層のe層からは、メロン仲間種子が2982点(破片16点)と最も多く出土している。このほかトウガン種子が798点(破片13点)、モモ核129点(破片101点)、ネズミモチ核117点、ナシ亜科種子91点(破片19点)、カキノキ種子61点(破片96点)、ウメ核35点(破片60点)と続く。e層の上層、d層からは埋土中最多の種実が回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で7789点(破片26点)、次いでトウガン種子8027点(破片72点)、カキノキ種子1616点(破片918点)、モモ核1324点(破片833点)、ナツメ核814点(破片88点)、ナシ亜科種子588点(破片38点)と続く。これように他層と比べると桁違いに数が多い。このほか木本植物として、カヤ種子、イヌガヤ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、シイノキ属堅果、アズキ核、サクラ属サクラ節核、センダン核、アケビ

第15表 平城京跡出土の植物種実(2)

分類群	部位	井戸SE860 枠内						SE860												
		a	b	b②	c	d	e	レキ層	一括	東方	覆土									
木本																				
カヤ	種子				1		26	1	16											
イヌガヤ	種子					1														
チョウセンゴボウ	種子				1															
ヤマモモ	核	1	2	6	42		320	6	7	1	8	3								
オニグルミ	核	5	4	104	1	14	41	16	510	17	27	4	36							
ハシバミ	炭化子葉						1													
クリ	炭化子葉				2															
クリ	六角皮				3		11	43	119	700<		13	21							
クリ	果皮	5	3	250<	200<		86	1900<	55	7800<	32	1200<	35	1	700<					
クリ	カント葉皮														300<					
ツブラジイ	堅果				2	11	17	18	2	4				4	1					
ツブラジイ	子葉								1											
シノキ属	堅果				1	6	150	280	743	5	67	2	3	19	1	6				
アンズ	核	1					1		26	4			3		1					
アンズ	幼果						1													
ウメ	核				1	17	13	166	104	35	60	1	4	24	13					
モモ	核	9	16	43	69	10	25	92	128	1324	833	129	101	6	4	72	41			
スモモ類	核				2	2		11	2	285	15	18		27	9					
サクラ節	核				1			4	4	4	4			2						
サクラ属	核								157	1	5					1				
ナンネ科	種子						34	9	586	38	91	19		42	13		3	1		
ナンネ科	果実						2	2	3	5	1	2		1						
センダング	核			3			2	6	5	6	8	1		1						
ムクロジ	果実									1										
アケビ属	種子								83	3										
ムベ	種子						18	2	59	9	2									
ミツバアケビ	種子																			
ナツメ	核	3			15		56	5	814	88	29	5		36	6		16	1		
ナツメ	幼果										1									
グミ属	核						2													
グミ属	種子								11	1	1									
アキダミ	種子								7											
ツルグミ	種子								1											
カキノキ	種子	10		1	1		106	87	1616	918	61	96		112	20		11	5		
カキノキ属	種子								4						1					
カキノキ属	果実	2		1	1															
マツ属総軸管束部	炭果						2		7	3	1		1	2						
マツ属総軸管束部	種鱗								6	8										
アラカシ	堅果								4	2	1	8								
シラカシ	堅果								13	13	2	1		1						
アカガシ	殻斗													1						
ナラガシワ	堅果										2	2								
コナラ属	堅果			1					1	2		1								
コナラ属	炭化子葉									6	1									
コナラ属	幼果								1				1							
コナラ属	殻斗						1		20	2	3			2			1			
アカガシ部	幼果								1											
アカガシ部	堅果								10	12	1	4								
ムクノキ	核	1					1		8	1	5							2		
コシシ	種子													1						
クスノキ	種子								2		8			1						
フジ属	果実								381											
ヤマ科	種子								19	4										
サンショウ	種子			3			41		184	5	15			10						
ノブドウ	種子						6		1											
ブドウ属	種子						13		17		5			1						
ツバキ	種子								1											
ツバキ属	果実								1	1								2		
エゴノキ	核																	2		
エゴノキ	種子									2	3	1	1							
クマノミズキ	核					1														
クサギ	種子								1		2	2								
クサギ	核									1										
ガウズミ属	核						1		9					1						
ミズミズチ	核										117		1							
草本																				
イネ	稲殻									2										
イネ	炭化種子						1													
オオムギ	炭化種子				1		2	1												
コムギ	炭化種子				1		3		2											
ヒシ	果実									10										
ナス属	種子						192		473	1	2			20	3					
トウガン	種子	101	18	911		29	618	42	8027	72	798	13	4	1	652	3		165	1	
メロン仲間	種子								77892	26	2982	16	4	2	5966	13		3	254	3
スイカ	種子	14		349		282	4576	44							1					
ウリ属	種子								2											
ヒョウタン仲間	種子				2		2	1	265	8	21	5								
ヒョウタン仲間	果皮						○		○		○			○						
ゴキツル	種子								1											



スケール 10mm : 1-3.5-17.20-23.25-30.33.35 5mm : 4.48.19.24.31-33.34.36

1. カヤ種子, 2. イヌガヤ種子, 3. チョウセンゴヨウ種子, 4. ヤマモモ核, 5. オニグルミ核, 6. ハシバミ堅果, 7. クリ果実, 8. クリ炭化子葉, 9. クリ果皮(六角加口), 10. ツブラジイ堅果, 11. アンズ核, 12. ウメ核, 13-16. モモ核, 17. スモモ核, 18. サクラ属, 19. ナシ亜科種子, 20. ナシ亜科果実, 21. センダン核, 22. ムクロジ核, 23. ムベ種子, 24. アケビ種子, 25. ナツメ核, 26. グミ属種子, 27. カキノキ種子, 28. マツ属果実, 29. マツ属種鱗, 30. アカガシ亜属堅果, 31. アカガシ亜属果実, 32. アカガシ亜属殻斗, 33. コナラ属堅果, 34. コナラ属殻斗, 35. コナラ属炭化子葉, 36. ムクノキ核

第9回 西大寺食堂院井戸 SE950 から出土した大型植物遺体 (1)



スケール 10mm : 40,45,55,57,59,66,72 5mm : 37,47,49,51,53,54,58,60-65,69 1mm : 38,39,41-44,46,48,50,52,56,67,68,70,71

37. コブシ種子, 38. クスノキ種子, 39. エンドウ属炭化種子, 40. マメ科果皮, 41. サンショウ種子, 42. アカメガシワ種子, 43. ブドウ属種子, 44. ノブドウ種子, 45. ツバキ属果皮, 46. カマノミズナ核, 47. エゴノキ種子, 48. クサギ核, 49. ガマズミ属種子, 50. モチノキ属果実, 51. イネ属果, 52. イネ炭化種子, 53. オオムギ炭化種子, 54. コムギ炭化種子, 55. ヒシ果実, 56. ナス属種子, 57. トウガン種子, 58. スイカ種子, 59. ヒョウタン種子, 60. メロン仲間種子 (モモルディアカ型), 61. メロン仲間種子 (マクワ・シロクワ型), 62. ウリ属種子, 63. ゴキズル種子, 64. アズキ亜属炭化種子, 65. ダイズ属炭化種子, 66. オナモミ果実, 67. アサ核, 68. ミクリ属核, 69. ソバ果実, 70. カナムグサ種子, 71. コウホネ種子, 72. トウゴマ種子

第10図 西大寺食堂院井戸SE950から出土した大型植物遺体(2)

第16表 平城京跡出土の植物種実(3)

分類群	部位	井戸SE930 枠内							SE960						
		a	b	b2	c	d	e	レキ層	一括	掘方	攪乱				
アズキ	種子				1	2									
アズキ亜属	炭化種子				2	4	2								
ヤブツルアズキ	種子					2		1		2		1			
ダイズ属	炭化種子			1				1							
エンドウ属	炭化種子							1							
トウゴマ	種子				1										
ソバ	種子				7			4							
タデ科	果実				1										
コウホネ	種子				1			11							
オナモミ	果実		2	5	2	19	2	28	3	1		1			
アサ	核			3	2	2	2								
カナムグラ	種子	1	14												
マツキ	種子							33							
不明・測定不能								125	78	15	7	5	14	16	1

第17表 平城京跡出土の植物種実(4)

属種子、ムベ種子、グミ属種子、アキグミ種子、コブシ種子、マメ科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ガマズミ属種子など、草本植物としてイネ籾殻、コムギ炭化種子、ナス属種子、ヒヨウタン仲間種子、アズキ種子、ササゲ属アズキ亜属種子、ダイズ属炭化種子、エンドウ属炭化種子、コウホネ種子、ソバ種子、オナモミ果実などが出土している。c層から上層は、出土種実の数が比較的少なくなるが、c層ではメロン仲間種子が4576点(破片44点)と依然多い。またc層では、他層ではほとんど認められないチョウセンゴヨウ種子やノブドウ種子、オオムギ炭化種子、トウゴマ種子、アサ核が少量であるが認められる。また一括資料ではあるものの、スイカ種子も出土している。このように枠内埋土からは多種多様な植物種実が出土しているが、掘方からは、エゴノキ核が2点、モモ核とメロン仲間種子の破片が出土しているのみである(第15・16表)。

分類群	部位	楡皮土坑	埋裏遺構SX7686		SX6530 静紀土坑	SK6577
		SK7699	上層	下層		
木本						
ヤマモモ	核	1		1		
ハシバミ	堅果	1				
タリ	果皮			4		
ウメ	核		3	4		2
スモモ類	核	1				
ナシ亜科	種子			6	5	
センダングサ	核		2	2		
ナツメ	核			9		
カキ/クワ属	種子			1		
グミ属	種子		1	2	3	1
マツ属(緑管東亜属)	球果	1	2	3		
マツ属	種子		14			
イチイ/ガシ	効果		1			
コナラ属	堅果	1				
アカガシ亜属	堅果				1	
クスノキ	種子	1				
サンショウ	種子			2		
ガマズミ属	核	1				
ハナカサ	核			1		
アカガシワ	果実		2	1		
カエデ属	種子		1			
草本						
ヒエ	有ふ実			1		
スズメノヒ	有ふ実		3			
ヒシ	果実		1			
ナス属	種子		61			
メロン仲間	種子		12	6	65	30
シロ属	果実		3			2
ヤナギタデ	果実		2			
イヌタデ	果実			2		
ギンギン属	果実		1	6		
タデ科	果実			226	5	
コウホネ	種子		3			
キケマン属	種子		1			
アリノコ属	種子		1			
カヤツリグサ属	果実		14			
カワラナ	果実		2			
ヒメクダ	果実		1			
ハリイ属	果実		1	1		
キンボウグ属	果実		1	1		
エノケグサ属	種子		9			
ヒルムシロ属	核		9	2		
ミドリ属	核		36			
マツキ	種子			3		
不明・測定不能		2	○	○	○	○

(2) 土坑

a. 阿弥陀浄土院(左京二条二坊十坪)

SK7699 埋土中に夥しい量の楡皮つまる楡皮土坑。奈良時代。

出土種実には、ヤマモモ核、スモモ類核、マツ属複維管束亜属球果、コナラ属堅果、クスノキ種子、ガマズミ属種子がそれぞれ1点ずつあり、破片資料としてハシバミ堅果がある(第17表)。

SX7686 埋裏遺構。地山を掘り込んで須臾器の大甕を埋めたもので、下半部のみが残存。調査区内にかかるのは北半部のみ。甕の径は約1.0mで据付掘方の径は約1.2m。層序から池SG7700と并存すると考えられる。奈良時代後半か。

植物種実には上層で区別されて回収されている。上層からは、ナス属種子61点、ミクリ属核36点、マツ属種子14点、カヤツリグサ属14点、メロン仲間種子12点(破片6点)、ウメ核3点(破片4点)、センダングサ核2点(破片2点)、アカマガシワ果実2点(破片1点)、グミ属種子1点(破片2点)などが出土している。このほかの遺跡には認められない、カワラナ果実、ヒメクダ果実、ハリイ属果実などの草本類が出土している。下層からは、タデ科果実226点(破片5点)、メロン仲間種子65点(破片30点)のほか、ナツメ核9点、ナシ亜科種子6点(破片5点)、グミ属種子3点(破片1点)、サンショウ種子2点などが出土している(第17表)。

b. 左京七条一坊

SK6530 七条々間北小路南側溝 SD6471 の溝底で検出した祭祀土坑。小路の交差点から東に 10～16 m にあり、東西 6.2 m、側溝の底から 50 cm 掘り込む。西端から 2 m 付近に馬上顎骨 2 点、下顎骨 1 点、脚骨、3.2 m 付近に土師器甕、1.4 m 付近に人面墨書土器 1 点、馬上顎骨 1 点、4.8 m 付近に須恵器壺、坏などが出土した。土器は平城宮Ⅱに属す。奈良時代前半。

出土種実には、メロン仲間種子の破片 2 点がある (第 17 表)。

SK6577 十六坪南西部の不整形土坑。坪東西二等分線の西 24～30 m、北小路北側溝から 18 m に位置する。南北 4.5 m、東西 6.4 m で、出土土器は平城宮Ⅲ新～Ⅳ。奈良時代後半。

出土種実には、モモ核の破片 2 点がある (第 17 表)。

3. 溝状遺構・条坊側溝

(1) 溝状遺構

a. 左京三条二坊

SD4750 左京三条二坊敷地内の中ほど、東辺築地際にある南北に延びる溝状遺構。長さ 23 m、幅 3 m、深さ 0.6 m 前後で、水が流れた痕跡はなく、塵芥を捨てた土坑と見られる。溝埋土は大きく 4 層に分かれる。下半部には多量の木簡を含んだ層があり、「長屋王家木簡」と称している 35,000 点にのぼる木簡が出土した。この木簡の年紀は和銅 4 年 (711) から霊龜 2 年 (716) の間に取まり、霊龜 2 年をさほど下らぬ頃に投棄され、埋められたと考えられる。

出土種実は木屑層から多量に出土した。最も多いのはモモ核 2350 点 (破片は 1046 点) で、他を圧倒する。次いで、オニグルミ核 74 点 (破片は 8180 点)、スモモ類 34 点 (破片 5 点)、ナツメ核 26 点 (破片 1 点)、メロン仲間 22 点 (破片 4 点) と続く。このほかにも、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、ウメ核、サクラ属サクラ節、アラカシ堅果、シラカシ堅果、トウガン種子などがみられる (第 19 表)。

b. 左京二条大路路状遺構

SD5100・SD5300・5310 二条大路南北濠状遺構。SD5100 は、二条大路路面上に南側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.6～3.5 m、深さ 0.9～1.2 m であり、東二坊々間路西側溝西肩の西 1.2 m のところから始まり、西に一坪分 120 m 延びる。SD5300・5310 は二条大路路面上に北側溝に接して掘られた素掘溝。断面逆台形で幅 2.0～2.7 m、深さ 1.0～1.3 m であり、SD5300 の東端は東二坊々間路西側溝西肩の西 0.8 m のところから始まり、西に 56 m つづき二条二坊五坪南門の手前 5 m で終わる。SD5310 は同じ南門の西 4 m から再び始まる。堆積は両者とも 4 層に分かれる。SD5100 の土層は、上から暗灰褐色砂質土層、炭層、木屑層、暗灰色粘土 (黒色砂) 層、SD5300 の土層は、上から黄褐色粘土混暗灰色粘質土層、炭・砂混暗灰色粘質土層 (炭層)、木屑層、黄褐色砂質土混青灰色シルト土層である。最上層は人為的な埋立土であり、土器や瓦を含むが、下 3 層とりわけ木屑層からは大量の木簡、土器、瓦、木製品等が出土した。下 3 層の年代は藤原宮遷都 (740) 以前に限定される期間になる。

平城宮・京内で、多くの植物種実資料がある遺構群である。その中でも SD5100 木屑層からは、非常に多くの種実が出土している (巻頭図版 2～4)。この中で最も多いのは、メロン仲間種子で、40,000 点以上 (実数は報告済みのため計数行わず)、以下モモ核 3511 点 (破片 2650 点)、ウメ核 2278 点 (557 点)、ナツメ核 2047 点 (破片 83 点)、ヤマモモ核 869 点 (破片 99 点)、スモモ類核 673 点 (破片 61 点)、ハシバミ堅果 437 点 (破片 1628 点)、クリ果皮 420 点 (破片 8500 点以上)、マツ属複雑管束亜属球果 318 点 (破片 500 点以上)、トウガン種子 303 点 (破片 3 点)、カキノキ種子 302 点 (破片 704 点) と続く。文字通り、他の遺構とは桁違いの量である。このほかに木本類として、カヤ種子、イヌガヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、アンズ核、ナシ亜科種子、ナシ亜科果実、センダン核、ムクロジ種子、アケビ属種子、グミ属種子、イチイガシ堅果、アラカシ堅果、シラカシ堅果、アカガシ亜属堅果、ムクノキ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、ツバキ属種子、エゴノキ核、クサギ核など、草本類として、イネ類、コムギ炭化種子、オオムギ炭化種子、ヒシ果実、ナス属種子、キカラスウリ種子、ミクリ属核、ヤナギタデ果実、ハコベ属種子、オニバス種子などが出土している (第 18・19 表)。

SD5300 木屑層からも、SD5100 ほどではないが豊富な植物種実が得られている。最も多いのはモモ核で 2911 点 (破片 1092 点)、次いでメロン仲間種子 639 点 (破片 4 点)、コナラ属堅果 220 点 (破片 314 点)、マツ属複雑管束亜属球果 145 点 (破片 400 点以上)、オニグルミ核 130 点 (破片 2393 点)、ナツメ核 124 点 (破片 4 点)、クリ果皮 114 点 (破片 4600 点以上) など続く。数量構成は SD5100 と若干異なるが、このほかの種実構成については類似している (第 18・19 表)。

なお、第 18・19 表の右端には、報告書 (奈文研 1995) で示した数量を示している。概ね同様の結果が得られて

第19表 平城京出土の植物種実(6)

分類群	部位	SD5100					SD5300	SD5310	SD5100	SD5300・			
		木屑層	炭層下 木屑層	炭層	炭層木屑 層	黒灰粘土	黒灰褐砂	灰粘土	木屑層	木屑層	SD5100 学数数値	SD5300 学数数値	
ナス属	種子	107						100<					
トウガン	種子	303				2		44	1	2	316.5	37.0	
メロン仲間	種子	4000<	1	700<		170<	○	639	4	5	2	48652.0	904.0
キカラスウリ	種子	1											
ウリ属	種子	1											
ヒョウタン仲間	果皮		○	○									
ゴキズル	種子							1					
ウリ科	種子	9	1										
ミナリ属	核	17	5								126.0	0.0	
ヤマギタゲ	果実	28									26.0	0.0	
サナエタゲ	果実							2			2.0	2.0	
ハコベ属	種子	15	6								2.0	0.0	
オニバス	種子	16	5					1	1				
キクマン属	種子	7											
カタサバロウ	果実	2				○					78.0	0.0	
オナモミ	果実	2						1			0.0	1.0	
スミレ属	種子							4					
不明・同定不能		29	54					6					

分類群	部位	長屋王部東辺築地跡南北		SD4750 学数数値
		木屑層	一括	
木本				
カヤ	種子	7	16	19.0
チョウセンゴヨウ	種子	1	117	47.0
オニグルミ	核	74	8180	3413.0
ハシバミ	核	1	295	382.5
ハシバミ	堅果	3	4	
クリ	六角皮		22	14.0
クワ	種子	6	1000<	4
クワ	カット		121	
ツブラジイ	殻斗	1		
ウメ	核	6	1	5.5
モモ	核	2350	1046	20
スモモ類	核	34	5	25.0
サクラ属	核		1	
サクラ属	核	5	1	2.5
バラ科ナシ亜科	果実		1	
ナツメ	核	26	1	26.0
カキノキ	堅果		2	
アヲカシ	堅果	9		
シラカシ	堅果	1		1.0
コナラ属	堅果	5		
コナラ属	殻斗	1	5	
コナラ亜属	殻斗	2		2.0
草本				
ヒシ	果実		13	11.0
トウガン	種子	8	13	14.0
メロン仲間	種子	22	4	11.0
ヒョウタン仲間	果皮		○	
不明・同定不能		3		

いるが、若干数値に違いがあるため併記しておく。

(2) 条坊側溝・堀

a. 左京二条

SD4951 東一坊大路西側溝。小子部門西脇を経て宮内から流出した排水路で、東一坊大路西側溝と宮東面外堀とを兼ねた南北溝である。幅約6.2m(最大約7.5m)、深さ0.8～1.4m。護岸は検出しなかったが、護岸施設の裏込めのための掘り込みと思われる幅数10cmのテラス状の段を検出した。堆積は大きく上下でわかれる。上層は茶灰砂質土・暗茶灰砂質土で、平安時代以降の堆積。奈良時代の堆積土である下層は、幅約4m、深さ0.5～0.8m。溝は何度も改修を受けており、遼都当初の堆積は残存しない。改修時期は出土木簡から天平中頃以降、天平宝字年間までと考えられる。堆積土は、下から木屑混暗褐粘土、ハラス混暗灰砂質土・灰褐粗砂、灰白ブロック混暗灰砂質粘土、灰白ブロック混暗灰砂質土の4層に大別できる。このうちハラス混暗灰砂質土以下において、大量の遺物が出土した。

この条坊側溝からは、二度の調査で植物種実が出土しており、とくに274次調査の部分での木屑層(下層堆積土)から多量に回収されている。最も多いのは、メロン仲間種子で6090点(破片3点)、次いでモモ核75点(破片95点)、カキノキ種子66点(破片55点)、ナツメ核31点(破片1点)、ウメ核28点(破片18点)、アケビ属種子24点(破片2点)と続く。このほか、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アンズ核、スモモ類核、ナシ亜科種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、エゴノキ核、トウガン種子、ゴキズル種子などが出土している。他の層位でもこの出土傾向は概ね一致しており、メロン仲間種子の量が多い。特に283-3次調査の木屑混暗灰粘土層では、8570点(破片287点)という多量のメロン仲間種子が出土している(第20表)。

SD17777 改作前の東二坊々間路東側溝。幅1.1m、深さ0.3m。黒灰粘土が堆積している。奈良時代前半か。

出土種実には、オニグルミ核の破片がある(第20表)。

SD17779 改作後の東二坊々間路東側溝。西肩のみを検出。この溝から天平神護2年の木簡が出土している。奈良時代後半か。

出土種実には、モモ核1点(破片2点)および、オニグルミ核の破片がある(第20表)。

SD7090 二条条間路北側溝。長さ約110mにわたり検出した。奈良時代中ごろに大幅な改修があり、改修前をSD7090A、改修後をSD7090Bとする。SD7090Aは、幅約3.8mで、開削当初は西から東に向かって水が流れていたと考えられる。溝の断面形状は東側で逆三角形を呈し、西に向かって逆台形へと変化する。これは、地山が東側の

第20表 平城京出土の植物種実(7)

分類群	部位	東一坊大路西側溝 SD4951							東二坊間路東側溝			
		274次				283.00次			SD17777	SD17779		
		黒褐色粘土	黒灰粘土	灰褐色砂	木屑層	排水溝	一括	木屑層(埋込)上	砂層層	一括	一括	暗灰砂
木本												
カヤ	種子	1		1	6					2		
イヌガヤ	種子										1	
チョウセンゴボウ	種子				1 16			1				
ヤマモモ	核				16 3	1 1			4		3	
オニグルミ	核	8	2	10	121	3	3	3	1 41	19	9	2 3
ヒメグルミ	核											
ハシバミ	堅果			1	100	3 1 1						
クリ	堅果											
クリ	果皮	7	6	38	488	5	41		30	28	5	
クリ	カット											
ツブラジイ	堅果			1	14 41	1 3						
スタジイ	堅果				23							
レイノキ属	堅果									2		
アンズ	核				3							
ウメ	核	4		1 1	28 18	1	3 1	1	5 8 2	2 1		
モモ	核	9 7		1 4	75 95	3 2	4 5	10 15	13 36	1		1 2
スモモ類	核				12 2				1 1 1	1		
サクラ属サクラ類	核				4				3	1		
ナン亜科	種子			1	14 1			1	3			
ナン亜科	堅果											
センダング	核	2		1	6 1				6 2	11 2	2	
アカヒ属	核	5			34 2	1		2	1			
ナツメ	核			11	31 1				1 1	1		
カキノキ	種子	3		3 3	66 55	1	1 3	4	4 4	1		
マツ属緑毛管束属	球果				3							
アラカシ	堅果	1			27				3			
コナラ属	堅果	1			1				1 4	1		
アカガシ属	殻斗				1							
アカガシ属	堅果											
クスノキ	種子				1							
サンショウ	種子				4			1				
ブドウ属	種子				5	1			7		1	
エゴノキ	核				2	1						
ハクウンボク	核								1			
キチノキ属	核										1	
カエデ属	種子				1							
草本												
トウガン	種子			1	2			17	2	5 1		
メロン仲間	種子	164	2	216	6090 3	307	130	8570 287	876	653 44		
ウリ属	種子				1							
ヒョウタン仲間	種子				1				1			
ヒョウタン仲間	果皮			○		○						○
ゴキブリ	種子				1							
トウダイグサ属	種子				1							
オナモミ	果実						1					
不明・固定不能					2							

灰白色粘土から調査区中央部より西にかけて砂に変化することが関係していると思われる。灰～灰褐色の砂が堆積し、最下層は植物遺存体を多量に含む灰茶色粘土である。SD7090Bは幅約2.0mで、改修前よりも細く、浅い。調査区西側では両岸に屢板(SX7093・7094)とこれを固定する丸木の杭列(SX7091・7092)が存在し、溝岸の崩落を防ぐものと考えられる。堆積は暗褐色粘質土が中心で、澱んでいた有様がうかがえる。粘質土の堆積を参考にすると、東から西への流れが想定でき、当初の流水方向が逆転している。これは門SB7110の建設による変更であろう。門の基壇は下層溝を埋め立てた上に構築されており、下層溝から上層溝への改修は、門の造営に合わせて行われたと考えられる。

植物種実、灰色砂、灰褐色砂、灰茶粘土(SD7090A)から多量に出土している。灰褐色砂からは、メロン仲間種子1920点(破片4点)のほか、モモ核28点(破片36点)、アケビ属8点、オニグルミ核6点(破片8点)、カキノキ種子5点(破片6点)などと続く。このほか、チョウセンゴボウ種子、ハシバミ堅果、クリ果皮、ツブラジイ堅果、スモモ類核、ナツメ核、サンショウ種子、ブドウ属種子、トウガン種子などが出土している。各層ともメロン仲間種子が多く、灰色砂層ではアケビ属種子が23点見られる(第21表)。

SD7100 二条条間路南側溝。長さ13mにわたり検出した。幅約4.6mで、断面形状は逆台形を呈する。幾度か改修が行われており、最終的には当初の位置よりやや北に寄っている。奈良時代。

出土種実、SD7090に比べて非常に少ない。埋土からメロン仲間種子のほか、オニグルミ核、クリ果皮、モモ核の破片が見られる(第21表)。

SD5200 二条条間路北側溝。SD5200AはA～C期(奈良時代前半)まで存続する。深さ約0.4m。SD5200Bは

第21表 平城京出土植物種実(8)

分類群	部位	二条条間路南側溝 SD7090						二条条間路北側溝 SD7100			
		灰黒粘土	灰色砂	灰褐色粘土	灰褐色砂	暗灰色粘土	暗灰色砂	一話	灰色砂	暗灰色粘土	暗灰色粘土
木本											
オウゴン	種子			2	1						
ヤマモモ	核		1								
オニグルミ	核	2	3		6	8					1
ハンパミ	堅果					2					
クリ	果皮		36	3	38		3		8		8
ツブラジイ	堅果				4	13		1			
ツブラジイ	炭化子葉	1									
シイノキ属	堅果				1						
ウメ	核					1					
モモ	核		5	6	1	28	36		2	2	1
スキモロ	核		3			5		1			
ヤカラ楢	核					2					
ナンゴク	種子	1									
アケビ属	種子	8	6	23	1	8					
ムベ	種子				1						
ナツメ	核					3		1			
カキノキ	種子	3	11	11		5	6		1	2	
マン属複維管束系属	球果		1						1		
アラカシ	堅果				1						
コナラ属	堅果		1	1		1	24				
アガシ系属	殻斗	1				1				1	
サンショウ	種子		1			4					
ゴボウ属	種子					1					
草本											
トウゴン	種子	2									
メロン仲間	種子	405	384	14	1920	4	12	200	382	2	18
ウリ属	種子				1						3
ヒョウタン仲間	種子	1									
ヒョウタン仲間	果皮			○		○			○		
タデ科	果実				2						
不明・同定不能		1									

分類群	部位	二条条間路北側溝 SD5200			
		284次	290次	120次	
		暗灰色粘土	茶灰粘質土	古	灰黒砂
木本					
オニグルミ	核		1		
クリ	果皮			1	
ツブラジイ	堅果	4		2	4
モモ	核		1	10	14
ムクロジ	果実	1			
コナラ属	堅果	1			

分類群	部位	東二坊々間路西側溝 SD4699・SD5021							三条々間北小路		
		SD4699 (198次)			SD4699 (193次)				SD5021	南側溝 SD4359	北側溝 SD4361
		木屑層	黒灰粘土	暗灰色砂	中層	下層	茶灰土	暗灰色粘土	暗灰色砂		
木本											
オニグルミ	核	3		1	2		3	16	9	3	
ハンパミ	堅果				1						
クリ	果皮	7	1	10				1	10		
ウメ	核				1						
モモ	核	32	37		3	3	1	1	9	3	
スキモロ	核			1				3	4	5	
マン属複維管束系属	球果			2					13	5	
草本											
メロン仲間	種子	6		61							
ヒョウタン仲間	果皮			○					○		

幅約2.0m、深さ約0.8m。5200Aの北岸を約2m南に寄せて掘削している。径約30～60cmの玉石組の護岸を設けている。南岸東側では側石の抜取穴を検出した。

植物種実として、モモ核のほか、ツブラジイ堅果、ムクロジ果実、コナラ属堅果、オニグルミ核、クリ果皮などが出土している(第21表)。

SD4699・SD5021 東二坊々間路西側溝。二条大路以南がSD4699、以北がSD5021である。SD4699は、幅2～3m、深さ0.9～1.2mの素掘溝で、南流する。堆積は上から茶灰色土(最上層)、灰色粘土(上層)、暗灰色粘土(中層)、暗灰色砂(下層)の順である。下の3層が溝の流れに伴うもので、最上層は埋め立て土である。下3層(SD4699A)が二条大路南側溝SD5094A・Bとつながり、最上層をきってSD5094Cが東流する。下3層からは木簡をはじめとして多くの遺物が出土しており、西側溝は奈良時代中ごろにはかなり埋まっていたと考えられる。

SD4699は2度の調査で検出されているが、植物種実の構成は両者で類似している。198次調査区の木屑層では、モモ核32点(破片38点)、メロン仲間種子6点のほか、オニグルミ核、クリ果皮が出土している。また、暗灰色砂では61点のメロン仲間種子が出土している。SD5021でも、モモ核13点(破片5点)、オニグルミ核の破片が出土し

第22表 平城京出土の植物種実(9)

分類群	部位	SD650												
		砂	1砂	2砂	3砂	灰黒土	1黒	2黒	その他					
木本														
ヤマモモ	核			2	3			2	1	1				
オニグルミ	核			1										
ヒメグルミ	核			15	12	14				1				
クリ	果皮													
ウメ	核		2	1				4						
モモ	核	11	7	26	22	11	8	3	26	40	1	1	33	25
スモモ類	核			1										
サクラ属	核				1									
草本														
ヒョウタン仲間	種子				46	2								
ヒョウタン仲間	果皮			○		○				○		○		

ている(第21表)。

SD4359・SD4361 七・八坪間の小路側溝SD4359・4361は奈良時代後半につくられて一旦廃され、奈良時代後半に再び作られる。改削以降、両側溝は東端で1条となり、埋め戻した東二坊々間路西側溝上を東流する。合流部分には石の護岸がある。奈良時代後半から末。

両者とも植物種実の出土は少量である。モモ核およびオニグルミ核が出土している(第21表)。

b. 左京一条

SD650 東三坊大路東側溝。南北約240mの間で、北方から南方に流れる溝を検出した。溝は時期を異にする2条の溝が上下に重なる状況で検出した。ここでは時期の古い下層の溝をSD650Aとよび、新しい上層の溝をSD650Bと呼ぶことにする。2条の溝はE地区北半では完全に上下に重なり、それ以南ではSD650Bが西側により、B地区南半以南では流路を別にしている。

SD650Aは、幅2.5m前後、残存路面からの深さ1.1m内外の素掘溝である。E地区での横断面は底部の狭いV字形、D地区以南では底部の幅が広がり逆台形を呈している。路面SX600の南方への傾斜と呼応し、底も北方が高く南方が低い。幅員は必ずしも一定せず、一時的に水たまりになるような場所では若干幅員を上げている。しかしながら、基本的には下層に灰色粗砂、褐色砂などが25～40cmの厚さで堆積し、その上に黒灰粘土が20cm前後の厚さで堆積し、さらにまた灰色砂などが堆積する。堆積土の中には土器、陶器、瓦、木器など多数の遺物が含まれており、ある部分では土砂の量よりも遺物の量が多い状況を示した。遺物の年代は平安時代の様相を呈し、天長5年(828)の告知札が存在することから、平安時代初期の遺構であることが分かる。奈良時代とみられる遺物が全くないわけではないが、それらは溝底に貼り付いた状況で検出された。奈良時代末から平安時代の間に大規模な浚渫工事がおこなわれたと考えられる。

SD650Bは、幅2m前後、残存路面から深さ0.5～0.9mで、SD650Aの埋没後に掘り開いたものである。底部は平坦面をなす部分もあるが、一般的には凹凸面をなす。この溝もSD650Aと同じく北方が高く、南方が低い。D地区における典型的な体積状況からすれば、下層に褐色系の粗砂が15cm内外の厚さで堆積し、その上に黒色粘土が30cm前後の厚さで堆積している。上部の黒色粘土は溝が東側に氾濫したのちに堆積したもので、SD650Aの上部を覆う。この溝からも多数の遺物が発見され、下層の時期を寛平大宝(890年)のころに比定することが可能である。

出土種実も、各層ともモモ核が多いことで一致する。このほかに、ウメ核、ヒョウタン仲間種子、ヤマモモ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮、スモモ類核、サクラ属核が出土した(第22表)。

c. 左京六条

SD6400 東一坊大路西側溝。断面が逆台形の幅の広い素掘溝で、幅7.5m、深さ1.5～1.7m。一部では護岸用の杭を伴うが、横木などは遺存しない。堆積の状況は場所によって若干異なるが、溝は大きく3時期の変遷をたどり、堆積層は7層に区分できる。最下層は褐色粗砂層で、溝底から溝の側面に残っている。その上には木屑層が堆積し、さらに青灰色砂質土層が堆積している。この段階で溝を掘り直しており、その後の堆積が暗灰砂層である。北東拡張区の西側溝西岸近く、暗灰砂層中で検出した曲物を埋設した遺構SX6422は取水施設と考えられるが、この層の堆積環境は長期にわたる滞水環境ではない。この層の上には、暗灰粘土層と青灰細砂層が堆積する。さらにこれらの堆積を開削し、灰色粘土層が堆積する幅3m弱、深さ0.9mほどの蛇行溝SD6414となる。堆積の時期は、最下層の褐色粗砂からは奈良時代初期から中ごろの土器、天平年間後半から天平宝字年間の木簡が出土しており、奈良時代中ごろまでの堆積と考えられる。次の木屑層からは奈良時代後半以降の土器や天平2年から宝龜3年の紀年木簡が出土しており、奈良時代後半の堆積と考えられる。奈良時代末にこれらの層を除去する大規模な改修がおこなわれており、

第 23 表 平城京出土植物種実 (10)

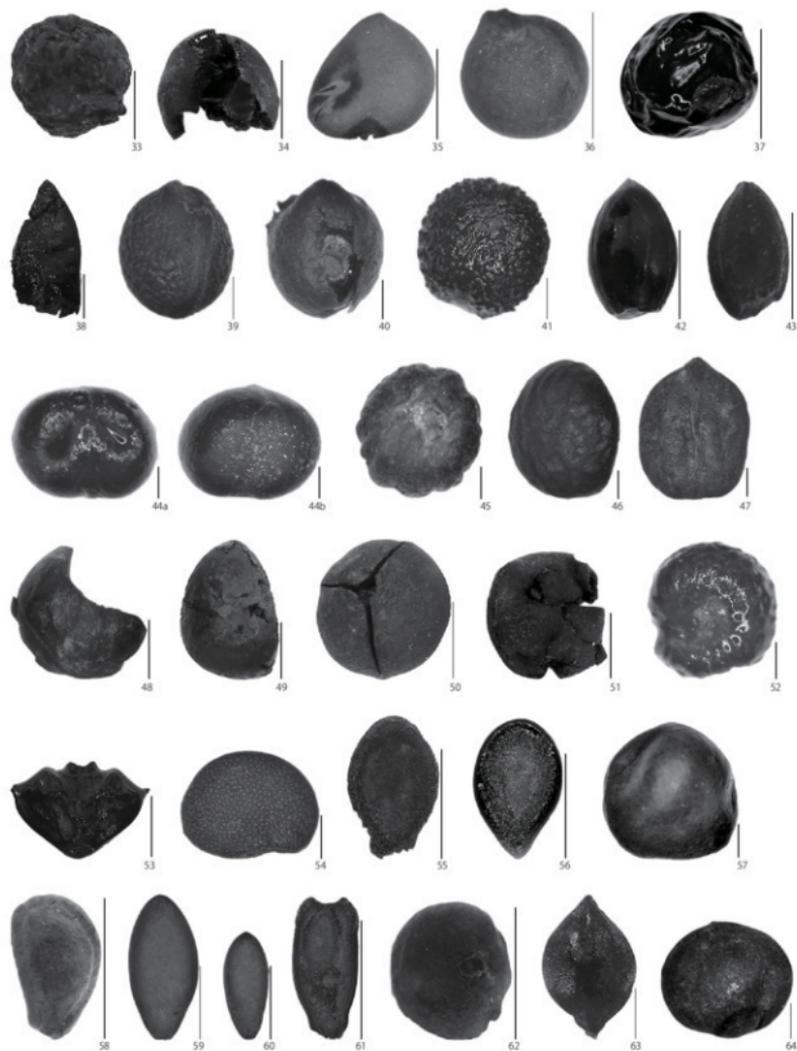
分類群	部位	東一坊大路西側溝 SD6400												
		褐粗砂	木屑層	青灰粘土	青灰砂 炭物内	暗灰粘土	暗灰砂粘	暗灰砂	洗灰砂	灰白砂	灰色砂粘	灰色砂	灰色粗砂	一括
基本														
カヤ	種子	4		3									2	
チョウセンゴボウ	種子	1		2									1	1
ヤマモモ	核	3	48	2			1	4					8	2
オニダルミ	核	3	30	1	19	1		4					52	
ヒメダルミ	核		5	2				1					2	7
ハシバミ	果実			5										4
クリ	果皮	4	171	1	2000<	50	1						5	400<
カクト	果皮		1	43										
ツブラジイ	果実							5					1	5
ツブラジイ	果実		1										1	
スタジイ	果実		1											
シイノキ属	果実	1	25	1	19			4					6	29
アンズ	核	2	1	1	3								2	
ウメ	核	9	7	56	29			3	1				21	19
モモ	核	36	21	27	30			1	4				26	8
スモモ類	核	5	1	11	3			1					9	1
サクラ属+クワ属	核	2		5	1			1					7	
サクラ属	核	1												
ナシ属	果実	2		1	3								1	2
ナシ属	種子	3		1									8	
ナシ亜科	種子	3	1	10	5			1					9	
ナシ亜科	果実	1												
センダン	核	8	2	46	5								15	4
ムクロジ	種子	3											2	
ムクロジ	果実	16	34										2	
ムクロジ	殻斗												3	
アケビ属	種子	9		22	4								16	8
ムベ	種子	3		1									3	
ナツメ	核	6	1	23				2					6	2
グミ属	核			1										
カキノキ	種子	4	2	4	3		1						4	15
ワツ属+楓属+管束属	果実	3		1									1	
イチイガシ	果実	1												
コナラ属	果実	17	3	2	1								26	27
コナラ属	果実	3											1	
コナラ属	殻斗		1											
コナラ属	果実	1		1									1	
コナラ属	果実	3	2										1	
コナラ属	殻斗	2		1									5	
アカガシ亜属	果実													
アカガシ亜属	果実	27		1									3	
アカガシ亜属	果実	5											2	
アカガシ亜属	殻斗	10	3	1									7	2
コブシ	種子			1									1	
クスノキ	種子			1										
クスノキ科	種子	30											1	
アロモジ属	果実			3										
フジ属	果実		2											
サンショウ	種子	1		8									7	
アカメガシワ	果実	4		10	1								3	
ブドウ属	種子	2		3									2	
ツバキ属														1
ミズキ													2	
ニゴノキ	核	7												
ニゴノキ	種子	27	4	5									8	5
ハクウンボク	核	1											1	
クサギ	種子	1		1									1	
ガマズミ属	核			5										
トチノキ	種子	2	2											
トチノキ	果実	1						3					1	
トチノキ	未熟果												1	
アゴツブラフジ	核												1	
													1	
基本														
ヒシ	果実	1	5	1	11								7	
ナス属	種子			7										
トウガン	種子	3		10										
スイカ	種子												1	
メロン仲間	種子	329	1	2802	1								1805	21
キカラシウリ	種子			2									3	1
ズメウリ	種子	1		1									1	
ウリ属	種子	1		1										
ヒョウタン仲間	種子			7									1	
ヒョウタン仲間	果皮		3											
ヤナギタゲ	果実	2		9										
オニバス	種子													
ケンボナン属	種子													
カンナムグサ	核	1												
不明・同定不能			2	3			1						2	



スケール 10mm: 1-3,5-16,20,21,23,26-32 5mm: 4,17,18,22,24,25 1mm: 19

1. カヤ種子, 2. イヌギヤ種子, 3. チョウセンゴウ種子, 4. ヤマモミ核, 5. オニグルミ核, 6. ヒメグルミ核, 7. ハシバミ堅果, 8. クリ果実, 9. クリ果皮(六角加工), 10. ツブラジイ堅果, 11. シイノキ堅果, 12-13. モモ核, 14. アンズ核, 15. ウメ核, 16. スモモ核, 17. サクラ属サクラ堅果, 18. ナシ亜科種子, 19. キイチゴ属核, 20. センダン核, 21. ムクロジ種子, 22. ムベ・アケビ属種子, 23. サツメ核, 24. ケンボナシ属種子, 25. ダミ属種子, 26. カキノキ種子, 27. マツ岡球果, 28. アカガシ亜属堅果, 29. アカガシ亜属殻斗, 30. アカガシ亜属幼果, 31. コナラ属堅果, 32. コナラ属殻斗

第11図 東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体(1)



スケール 10mm : 33,38,42,43,48-50,53,55,58,62 5mm : 34-37,51,56,59,60 1mm : 39-41,44-47,52,54,57,61,63,64

33. コナク属幼果、34. ムクノキ核、35. コブシ種子、36. クスノキ種子、37. クロモジ属果実、38. フジ属果実、39. サンショウ種子、40. サンショウ種子(皮付)、41. アカメガシワ種子、42. ハクウンボク核、43. エゴノキ種子、44. フドウ属種子、45. ミズナ核、46. クサ子核、47. ガマズミ核、48. トチノキ種皮、49. トチノキ果皮、50. トチノキ幼果、51. トチノキ未熟果、52. アオツツタフジ核、53. ヒシ果実、54. ナス属種子、55. トウガン種子、56. スズメウリ種子、57. ウリ属種子、59. メロン仲間種子(モルディカ型)、60. メロン仲間種子(マクワ・シロウリ型)、72. キカラスウリ種子、61. ヒョウタン種子、62. オニバス種子、63. ヤナギタデ産果、64. カナムグラ核

第12図 東一坊大路西側溝 SD6400 から出土した大型植物遺体(2)

その後堆積した暗灰砂層からは、天平宝字7年から12～13世紀の土器が出土しており、最終的にはこの時期に埋められたと考えられる。

植物種実とは多量に出土している。写真は第11・12図に示した。最下層の褐色粗砂層では、メロン仲間種子が329点(破片1点)と最も多く、次いでモモ核36点(破片21点)、クスノキ科種子30点、エゴノキ種子27点(破片4点)、ムクロジ果実16点(破片34点)、ウメ核9点(破片7点)、センダン核8点(破片2点)などと続く。その上の木屑層でも、メロン仲間種子が2802点(破片1点)と最も多いが、以下はウメ核56点(破片29点)、ヤマモモ核48点(破片2点)、センダン核46点(破片5点)、モモ核27点(破片30点)、ナツメ核23点、アケビ属22点(破片4点)と続き、最下層の状況とやや異なる。さらに改修後の堆積である暗灰砂層からは、メロン仲間種子1805点(破片21点)とやはり最も多く、ついでモモ核26点(破片8点)、コナラ属26点(破片27点)、ウメ核21点(破片19点)、アケビ属16点(破片8点)、センダン核15点(破片4点)と続く。このほか、これらの層では、カヤ種子、チョウセンゴヨウ種子、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ハシバミ堅果、クリ果皮、アズキ核、スモモ類核、サクラ属サクラ節核、ナシ亜科種子、コブシ種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ミズキ核、クサギ種子、トチノキ種子、ナス属種子、トウガン種子、スズメウリ種子、ヤナギタデ果実などが出土しており、分類群の構成は類似している(第23表)。

SD6449 六条大路南側溝。幅5.0～5.5m、深さ0.9mの素掘溝で、溝底の標高は53.9m。堆積層は下から青灰粘土、灰色粘土、灰黄シルト、茶灰シルト、黄褐色土の順である。茶灰シルトまで埋まった段階で、南寄りに幅0.7m、深さ0.3mの小規模な溝を掘り直している。遺物としては奈良時代前半の土器が少量出土した。奈良時代。

植物種実として、イヌガヤ種子、ムクロジ種子、ミズキ核、トチノキ種子などが出土している(第24表)。

SD6451 六条大路北側溝。幅4.5～4.7m、深さ0.7mの素掘溝で、溝底の標高は53.4m。溝の上部は南側溝同様に六条大路の路面側に広がっており、それを含めると溝幅は5.9mになる。堆積層は下から灰褐色、灰黒粘土、暗灰粘土、暗灰砂質粘土、暗灰シルト、黄灰砂質土。暗灰粘土層および暗灰砂層からは奈良時代の荷札木簡がそれぞれ1点ずつ出土している。奈良時代。

植物種実として、モモ核1点(破片1点)が出土している(第24表)。

d 左京九条一坊

SD1300 東堀河。九坪の中央から北から南に縦断して流れる。堀河は当初、幅約10m、深さ1.4mの素掘りであり、後に幅を狭めてシガラミによる護岸をおこなっている。河底はほぼ平坦で、兩岸とも急傾斜の掘り込みとなる。堆積層は兩岸近くは粘土層、中央部は砂層で、砂層はシガラミを敷いて護岸を施した以前と以後の堆積層の2層に大きくわかれる。上層砂層の下部および下層砂層からは木簡をはじめとして木製遺物、土器、金属器などの多量の遺物が出土した。堀河の廃絶期は遺物から9世紀前半とみられる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では77点(破片27点)出土している。また、灰黄砂からは、メロン仲間種子が20点出土している。このほかの種実数は数点ないし、破片資料で、オニグルミ核、クリ果皮、ウメ核、アラカシ堅果、オナモミ果実などがある(第25表)。

SD1155 九・十坪境の東西小路(SF1160)の南側溝。幅3.4～3.8m、深さ1.2mあり、西に流れ東堀河に落ちる。

植物種実として、モモ核が最も多く灰色砂では190点(破片83点)出土しており、メロン仲間種子88点(破片1点)が次ぐ。このほかアズキ核、ウメ核、オニグルミ核、ヒメグルミ核、ナシ亜科種子が少量ないし破片資料で出土している(第25表)。

f 右京八条一坊

SD920 西一坊々間大路(SF910)西側溝。溝上面の幅は5.50m～11.00m、溝底の幅は3.00m～8.00m、深さは約1.5～1.75mを測る。東側溝SD880が小規模で、雨水排水を全て西側溝SD920で受けるにしても、道路側溝に不相応に大規模である。埋土の状況から溝は3時期に分けることができる。A期の溝は、平城宮造営当初の溝で、堆積層はない。B期の溝は兩岸を暗灰色粘土で護岸している。溝の堆積は最下層が灰黒色の粗砂層で、流れによる挟のためか、一部護岸のための粘土も下層にもぐりこむ。この上に砂層と粘質土層とが互層をなし、溝幅はA期のものよりも約2～3m狭くなっている。暗灰色粘土層からは主として平城宮Ⅱ・Ⅲの土器が出土した。C期の溝はやや狭く浅くなり、堆積土は灰色の細砂を主体とする。出土遺物は少ないが、主として奈良時代末期から平安時代初期のものである。これらの溝を最終的に赤褐色の均一な粘土で埋める。埋土は厚さ0.2～0.3m、幅約7.0mで、西

第24表 平城京出土植物種実(11)

分類群	部位	六条大路 SF6450		
		南側溝SD6449		北側溝SD6451
		灰色砂	暗灰砂	灰黒粘土
木本				
イヌガヤ	種子			2
モモ	核			1
ムクロジ	種子		2	3
コナラ属	殻斗	2		
アカガシ亜属	殻斗		1	
ムコノキ	核		1	
ミズキ	核		1	
トチノキ	堅果	16	1	
不明・決定不能				2

第 24 表 平城京出土植物種実 (12)

分類群	部位	東福河 SD1300 (141-23次)				SD1300 (93次)		SD1155	
		灰色粘土	灰色砂	灰泥砂	暗灰砂				
木本									
オニグルミ	核			3				5	
ヒメグルミ	核							2	
クリ	果皮		10					17	
アズミ	核						1		
ウメ	核		1	4	1		2	1	
モモ	核	1	77	27	43	17	1	190	83
ナシ亜科	種子								1
アラカシ	堅果		3						
草本									
メロン仲間	種子		1	20					
ヒョウタン仲間	種子							88	1
	果実		1						
	不明・同定不能		1						

分類群	部位	西1坊坊間大路西側溝 SD920								SD1496	
		黒褐色粘土	黒褐色土	黒灰粘土	灰色粗砂	灰色砂	暗灰粘土	㊦	㊧	一括	最下層新
木本											
オニグルミ	核		1						2		1
ヒメグルミ	核		1								
クリ	果皮		15			6		10			3
モモ	核	2	5	3	1	16	10	1	2	23	6
草本											
ヒョウタン仲間	果皮		○								

分類群	部位	SD1525	SG1504
		河川中	池石間
木本			
オニグルミ	核		
モモ	核		
マツ属複雑管束亜属	球果	11	6
マツ属複雑管束亜属	種子		9
マツ属複雑管束亜属	種鱗		112
草本			
メロン仲間	種子	40	4
ヒョウタン仲間	果皮		

一坊々間大路の路面にまで及んでおり、おそらく路面敷を削って埋め立てたものであろう。この層から9世紀におさまる灰軸陶器片が出土している。

植物種実として最も多いのは、モモ核である。このほかオニグルミ核、ヒメグルミ核、クリ果皮が出土している (第25表)。

SD1496 十三坪・十四坪間の坪境小路 (SF2000) の南側溝。溝幅が約1.5m、深さ40～50cmである。溝底のレベルは東の方が低く、水は西から東へ流れていたと考えられる。埋土からは平城I～Vの土器が出土した。

植物種実として、モモ核10点が出土した。(第25表)

(3) その他の溝、園池

a. 左京三条二坊

SG1504 六坪にある園池。園池は、平均幅15m、延長55mあり、池全体を石組で固め、曲池とするような形で蛇行している。導水口、溢水口の高さから、水面の幅は、広いところで5～6m、狭いところで2m、平均3m前後である。水深は広いところで最も深く25cm、平均20cmである。水際は全面玉石を一列に立てて据えつけている。池の堆積土は、底石の上に20～30cmの厚さで植物種実を含む灰褐色粘土がある。この層は、導水施設から流入したのではなく、池の使用時期に自然堆積したものと思われる。また、この上層からは土師器、瓦などが出土し、この年代から池の廃絶は奈良時代末期に比定できる。

報文 (奈文研1976) では、出土植物種実として、クロマツ球果61点、モモ核5点、ウメ核、センダン核7点、センダン種子3点、ヒルムシロ果実1点、ヘラオモダカ種子1点、ウツギ蒴果9点、ゴキズル種子片3点を挙げている。現状で保管されている種実は、池石間から出土したマツ属複雑管束亜属に限られる (球果11点など) (第24表)。

SD1525 園池SG1504に導水するための導水路。園池と同様旧河川SD1560を利用した幅4～7mの溝で、園池の手前で滞留し、木樋SX1523により導水している。導水路の堆積土の下層より、造営時に廃棄されたものと思われる多量の加工木片とともに「和銅」の年紀をもつ木簡が出土した。

植物種実として、埋土からメロン仲間種子40点 (破片4点) が出土している (第25表)。

第4章

結語

—古代における植物性食文化の解明に向けて—

1. 藤原宮・京・飛鳥地域出土植物種実

藤原宮・京跡の6遺構と飛鳥地域、石神遺跡の12遺構を調査対象とした。これらの遺構の年代は、共存遺物から7世紀後半から8世紀初頭には限定できる。出土植物種実をまとめると、第26表のように48分類群が抽出される。これを遺構別にみておきたい。

まず、藤原宮七条一坊の便所遺構SX7420からは、木本類はあまり出土していないが草本類の種類が多い。報文(黒崎編1992)に数量が示されていないが、小型種実の種類が多いのは、水洗選別の際の篩目の細かさによる。にもかかわらず、他の遺跡で出土しているクルミ類やモモ核などが認められないことは、注意しておきたい。この遺構で出土しているキイチゴ属核、クワ種子、サンショウ種子、ブドウ属種子、ノブドウ種子、ナス属種子、メロン仲間種子は、食用にされたものだろう。一方、草本類の多くは、食用ではなく周辺の植生を示す雑草群と考えられ、ホタルイ属果実、タカサブロウ種子、イボクサ種子などは湿地を好む植物である。

次に、井戸・土坑では、メロン仲間種子、モモ核、ナツメ核が基本的な構成になる。回収方法の問題もあるだろうが、種類数は多くはなく、これにスモモ類核やヒョウタン仲間種子、カキノキ種子、カヤ種子、オニグルミ核などは

第26表 遺構・時期別にみた出土植物種実(藤原宮・京・飛鳥地域)

遺構の種類 およびその発掘時期	便所	井戸					土坑			瀬河・溝		
		7C末	7C末	7C末	7C末	7C後半	7C末	7C末	7C末	SD4089* 4090	SD1347	SD4121
分類群	部位	SX7420	SE4080	SK8471	SK4060	SD1901A						
木本												
カヤ	種子			△					○			△
イヌガヤ	種子								○			
ヤマモモ	核								△		△	△
オコグロミ	核			△				△	○			
ハシバミ	果実								○		△	
タリ	果実								○		○	○
ツブラソイ	堅果							△	○			
モモ	核		○	○	○				○	○	○	○
スモモ類	核			○	○				○	○		○
サクラ節	核								△			
サクラ属	核										△	
ナシ亜科	種子								△			
ムクロジ	核								△		△	
センダン	核								△		△	
ムベ	種子							△				
キイチゴ属	核	○										
ナツメ	核		△	○		△		○		○		○
カキノキ	種子					△						△
クワ	種子	○										
クワ属	種子							○		△		
コナラ属	堅果							○		△		○
マメ科	種子										△	○
サンショウ	種子	○						○	○	△		○
ブドウ属	種子	○						○		△		
ノブドウ	種子	○										
ミズキ	核							△				△
トチノキ	種子									△		
クサギ	核									△		
クマノミズキ	核									△		△
草本												
イネ	穎									△		
サス属	種子	○								△		
トウガン	種子											△
メロン仲間	種子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒョウタン仲間	種子		○	○				○	○	○		○
シソ属	果実	○		○				△		△		
ヤブツルアズキ	種子	○										
タダ科	果実	○										
ギンギン	果実	○						○				
トウゴマ	種子									△		
ホタルイ属	果実	○										
カタバミ	種子	○										
アカザ属	種子	○										
キンボウグ属	果実	○										
ナゲシコ科	種子	○										
キク科	果実	○										
タカサブロウ	果実	○										
アサ	種子	○										
カヤツリダマ属	果実	○										
イボクサ	種子	○										

○●△は数量の多寡を示す。数値はそれぞれの遺跡で大きく異なるので目安であるが、○は100点を大きく上回る主体となるもの。

△は10～100点前後、●は10点未満。ただしSX7420は数量不明。なお、欄外は○に付す。第27～29回も同じ。

加わる程度である。これらはすべて食用可能である。

これに対して、溝や運河では、種実の種類が多くなる。メロン仲間種子とモモ核が主体となり、SD4089・4090ではスモモ核もこれらと並んで多い。土坑や井戸にもみられたナツメ核やヒョウタン仲間種子のほか、オニグルミ核やハシバミ核、クリ果皮、サンショウ種子、ブドウ属種子なども一定量含まれる。これらのほとんどは食用可能な植物であり、食糧残渣として廃棄されたか、あるいは排泄物として処理されたものが含まれていた可能性がある。第1章でも述べたとおり、溝は土坑や井戸等とは違って流動的かつ開放的な遺構であり、異なる由来の種実が累積的に堆積することで、相対的に多様な組成を示すのだろう。

2. 平城宮・京出土植物種実

平城宮跡の35遺構と平城京跡の58遺構を調査対象とした。これらの遺構は基本的に8世紀中(奈良時代)のある時点で廃絶された考えられるが、一部には、12～13世紀ごろまで存続するものがある。遺構の性格別に出土量の多い遺構をピックアップしたのが第27～29表である。内訳は、糞便遺構(ないし便所遺構)2基、井戸4基、土坑3基、建物1棟、溝・溜状遺構8条の計18遺構である。これらの遺構では夥しい数の種実が出土しており、また分類群の数も163分類群と藤原宮・京・飛鳥地域と比べて約3倍となる。これは、繰り返し述べているとおり、資料の回収方法による違いが大きいが、植物種実が遺存し易い家坊側溝や井戸などの調査事例の多さにも起因していると推察される。

平城宮東方官衙の糞便遺構でも、モモやクルミ類などの大型植物種実は出土しておらず、比較的小型の種実が多い。糞便遺構の1つSX19198の分析(芝ほか2013)によると、食用植物として、メロン仲間種子、キイチゴ属核、アケビ属種子、ナス属種子、が主体となり、カキノキ種子、イタビカズラ節核、マタタビ属、サンショウ種子、ヤマブドウ種子、エゴマ果実などが含まれている。同じ東方官衙のSX19202では、これらのうちのカキノキ種子やアケビ属種子などの比較的大きい種実が含まれていないが、これは、分析した土壌量の差(SX19198:3000cc、SX19202:200cc)が影響していると思われる。いずれにしてもこれらの資料のほとんどは、菌木や寄生虫卵、ハエの蛹と一緒に出土しているので、排泄された便の内容物であると考えて間違いはない。しかも平城宮内の官衙地区の遺構群であるという点は、時期だけでなく開いた人々が官人たちであるということまで絞りこめる可能性をもつ。今後、宮・京内での類似遺構の検出を期待したい。

次に井戸・土坑の様相をみておく。井戸で共通する特徴は、モモ核が主体ないし一定量出土していることである。この特徴はここには掲げているが、京内のその他の井戸遺構でもいえることである(第3章、第14表参照)。またクルミ類やクリ果皮、スモモ核などといった木本類が糞便遺構に比べて目立つ。長屋王邸宅の井戸SE4770ではあまり種類多くないが、モモ核を主体として、これらの種類で構成される。モモ核の出土は井戸祭祀との関連も想起されよう。ここで取り上げたその他の井戸では、モモ核以外にも、多数の種類で構成される。平城宮東院の井戸SE16030、西大寺食堂院の井戸SE950からは、多くの種類の種実が出土しており、特に後者の数量は、平城京内でも随一である。SE16030では、モモ核が41点であるのに対してセンダング核が1200点以上出土しており、その特異な状況が際立つ。また武部省東方官衙の井戸SE17505では、ナシ亜科が主体となり、その他の種実の数量はあまり多くない。SE950では、モモ核も1500点以上あるが、それよりもメロン仲間種子が8万点超、トウガン種子約1万点、カキノキ属種子が約2000点など、食用植物の多さが特徴である。また、イネやオオムギ、コムギなどの穀物の炭化種子もある。これは、西大寺食堂院という食物を取り扱う施設の性格が反映された食用植物に特化したあり方であろう。塵芥の廃棄土坑や大型建物の柱穴採取穴でも、多数の種実が見つかる。これらの遺構では、モモ核は存在するものの主体とはならず、メロン仲間種子やクリ果皮などが多くなる。しかし、種実構成もそれぞれの土坑で多様であり、共通性はあまりない。

最後に溝状遺構である。ここでは8遺構取り上げているが、一見してわかるのは木本類種実の多さである。糞便遺構、井戸(西大寺井戸除く)、土坑と比較しても、その種類の多さは群を抜く。食用植物のカヤ、チョウセンゴウ、クルミ類、ヤマモモ、ハシバミ、アンズ、ウメ、モモ、スモモ類、サクラ属、ナシ亜科、ナツメ、アケビ属、カキノキ、サンショウ、ブドウ属は、ほとんどの溝状遺構で出土している。また草本類でもメロン仲間種子、トウガンが構成される。草本類は回収方法によって、回収量に差が顕著に現れるが、食用植物もかなり入っているとみたほうがよいだろう。ただし、溝状遺構には、マツ属やコナラ属など周辺に生息に反映された種実も多く入っていることは注意しておかねばならない。また、先述のとおり、溝状遺構は流動的かつ開放的であるという特徴もあり、空間的な評価が難しいことも考慮にいれておかねばならない。花粉分析や他の出土遺物を含めた総合的な分析が必要となろう。

3. 出土植物種実と文献史料

古代都城出土の植物種実とは、木簡や文献史料も多く認められる。このうち食用可能なものを以下に列挙する（漢字の名称は、関根貞隆（1969、2001）、油に関しては神野編（2014）を参照した。一部は重複して記載する）。

穀類 イネ（米）、オオムギ（大麦）、コムギ（小麦）、ヒエ（稗）、アワ（粟）、ダイズ属（大豆）、アズキ・ササゲ属アズキ亜属（小豆）、ソバ（蕎麦）、ゴマ（胡麻子）、エゴマ（荳子）

野菜類 メロン仲間（瓜、大瓜）、トウガン（冬瓜）、ナス（茄子）、クワ（桑）、ミズアオイ（水葱）、コウホネ（川骨）、ギンギン属（羊蹄）

果物類 カヤ（榎）、クルミ類（胡桃・呉桃子）、モモ（桃子）、ウメ（梅子）、スモモ（李子）、ヤマモモ（山桃・楊梅）、キイチゴ属（イチゴ・覆盆子）、ナシ属（梨子）、アケビ（筍子）、ムベ（郁子）、カキノキ（柿子・干柿）、クリ（栗）、栗子、ナツメ（棗）、ヤマブドウ・ブドウ属（葡萄）、スタジイ・ツブラジイ（椎）、ヒシ（菱）

香辛料・油類 エゴマ（荳子）、ゴマ（胡麻子）、サンショウ（蜀椒、椒）、イヌサンショウ（薏椒）、クルミ類（胡桃子）、イヌガヤ（閉美）、アサ（麻）、ツバキ（海石榴）、タデ（蓼・多弓）、コブシ（山藪）。

管見の限りでもこれらの種類が列挙できるが、このほかの出土種実にも食用可能なものは多い。チョウセンゴヨウ、ハシバミ、アンズ、サクラ属、グミ属、イタビカズラ節（イチジク状果）、サルナシ、シマサルナシ、スイカなどはそれにあたり。特にハシバミは、藤原宮・京、平城宮・京の複数の地点で果皮として多く出土する傾向があるので、一般的に食用されていたことが想定できる。このほか、イタビカズラ節やサルナシは、東方官衙の糞便遺構で出土しており、排泄された便の中に含まれていたと考えられるので、やはり食用であろう。また、1点ずつであるが石神遺跡のSD4089と西大寺食堂院井戸SE950から出土しているトウゴマ種子は、蓖麻子（ひまし）油の搾油に利用されるものである。

4. 今後の課題—古代における植物性食文化の解明に向けて

本書では、藤原宮・京・飛鳥地域、平城宮・京の出土植物種実を分類し、遺構ごとに集めた。これが奈文研が所蔵している種実資料のすべてではないが、全体像は網羅されている。最後に今後の課題を挙げて収束したい。

本文中でもたびたび述べたように、ここで取り上げた植物種実が発掘調査現場でピックアップされたものも多く、定量的な調査、分析によって得られたものは、数少ない。またそうした調査がなされたとしても、多くは木簡の回収に必要な篩目が5mmあるいは2mmといった、比較的目的の大きな篩が用いられており、草本類全体をカバーすることはできていない。したがって、ここで「ない」ことが本来的に「なかった」とは言えない。また植物種実の残存の有無や量は堆積環境にも左右される。地下水位の高い場所のような酸素の遮断されるような環境でなければ残存すらしめない。それにもかかわらず、これほど多くの植物種実が回収されているのは、藤原宮・京、平城宮・京の特異な環境がある。木簡が残ることと同じ恩恵を受けているのである。そして木簡には食物の名前や量が書いてあることも多い。木簡と植物種実など実際の食物が残るといふ、稀有な環境をフルに生かしていかなければならない。

むしろ、食文化復元には植物種実だけでは片手落ちである。動物骨や魚骨などの動物遺存体や、文献史料、絵図資料などを用いる必要がある。ここで取り上げた食用植物の数々は、食卓のごく一部にすぎない（食卓にのぼるかどうかもあやしい）のである。ただ、確実に古代都城やその周辺で食用とされていたもの考古資料に基づくことによって、時空間的位置を押さえることができることは強調しておきたい。

今後は、遺跡調査での定量的な調査、分析をおこなうこと、また周辺植生との関係を知るための花粉分析などとの併用という基礎的データの蓄積が必要である。また植物種実自体の形態分析や加工痕跡に関する分析など、まだまだ考古学的な分析が可能である。これによって、植物と人間活動との関係を明らかにしていくことが、深みのある食文化解明に役立つだろう。

引用・参考文献

第2章 藤原宮・京・飛鳥地域出土の植物種実

- SX7420 黒崎 直編 1992『藤原京跡の便所遺構—右京七条一坊西北坪—』奈文研
SE8431・SK8471 奈文研 1996『飛鳥・藤原宮発掘調査概報26』
SE275 奈文研 1995『飛鳥・藤原宮発掘調査概報25』
SD1901A 奈文研 2009『奈良文化財研究所紀要2009』/奈文研 2012『奈良文化財研究所紀要2012』
SX10820 奈文研 2012『奈良文化財研究所紀要2013』
SE4080-4097 奈文研 2003『奈良文化財研究所紀要2003』
SX4122 奈文研 2004『奈良文化財研究所紀要2004』
SD4089-SD4090 奈文研 2003『奈良文化財研究所紀要2003』/奈文研 2003『奈良文化財研究所紀要2003』/奈文研 2004『奈良文化財研究所紀要2004』/奈文研 2007『奈良文化財研究所紀要2007』/奈文研 2008『奈良文化財研究所紀要2008』
SD1347 奈文研 2003『奈良文化財研究所紀要2003』/奈文研 2004『奈良文化財研究所紀要2004』/奈文研 2007『奈良文化財研究所紀要2007』/奈文研 2008『奈良文化財研究所紀要2008』
SD4121 奈文研 2004『奈良文化財研究所紀要2004』
SD4280 奈文研 2008『奈良文化財研究所紀要2008』

第3章 平城宮・京出土の植物種実

- SX19196-SX19202 奈文研 2010『奈良文化財研究所紀要2010』
SX19198 奈文研 2013『奈良文化財研究所紀要2013』
SE9218 奈文研 1981『平城宮発掘調査報告XI』
SE17488-SE17505 奈文研 1997『奈良国立文化財研究所年報1997-Ⅲ』
SE6166・SE7094 奈文研 1985『平城宮発掘調査報告VII』
SE16030 奈文研 1994『1993年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
SK219 奈文研 1962『平城宮発掘調査報告II』
SK820-SK2102 奈文研 1976『平城宮発掘調査報告VII』
SK1623 奈文研 1978『平城宮発掘調査報告IX』
SX19198 奈文研 2011『奈良文化財研究所紀要2011』
SB7802 奈文研 1981『平城宮発掘調査報告XI』
SB18500-SD3825 奈文研 2011『平城宮発掘調査報告17』
SD3715-SD3765 奈文研 1981『平城宮発掘調査報告XI』
SD2700 奈文研 1983『昭和57年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』/奈文研 1987『昭和61年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
SD3410-SD17650 奈文研 1998『奈良国立文化財研究所年報1998-Ⅲ』
SD5575-SD5505 奈文研 1981『平城宮発掘調査報告XI』
SD1900 奈文研 1978『平城宮発掘調査報告IX』
SD11600-SD16742 奈文研 1996『1995年度 平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』
189次 SE40 奈文研 20003『平城京左京二条二坊十四坪発掘調査報告 旧石器時代編(法華寺南遺跡)』
SE4116-SE5205 奈文研 1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』
SE6432-6657 奈文研 1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』
SE1305-1880 奈文研 1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』
SE950 奈文研 2007『西大寺食堂院・右京北辺発掘調査報告』
SE491 奈文研 1993『西隆寺発掘調査報告』
SK7699-SX7686 奈文研 2001『奈良国立文化財研究所年報2000-Ⅲ』
SX6530-SK6577 奈文研 1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』
SD4750-SD5310 奈文研 1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』

- SD4951 『奈良国立文化財研究所年報 1998-Ⅲ』
 SD17777・SD17779 『奈良国立文化財研究所年報 1998-Ⅲ』
 SD7090・SD7100 『奈良国立文化財研究所年報 1998-Ⅲ』
 SD5200・SD4361 奈文研 1995『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告』
 SD650 奈文研 1976『平城宮発掘調査報告VI』
 SD6400・6451 奈文研 1997『平城京左京七条一坊十五・十六坪発掘調査報告』
 SD1300 奈文研 1976『平城京左京八条三坊発掘調査概報 東市周辺東北地域の調査』／奈文研 1983『平城京東堀河 左京九条三坊の発掘調査』
 SD920 奈文研 1984『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』
 SD1496 奈文研 1989『平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告』
 SG1504・SD1525 奈文研 1976『平城京三条二坊六坪発掘調査概報』

その他の引用・参考文献

- 井上和人 2007『日本古代都城制の研究』 吉川弘文館
 小澤 毅 1997『日本古代宮都構造の研究』 青木書店
 芝康次郎・佐々木由香・バンダリ・スダルシャン・森勇一 2013「平城京東方官衙地区SX19198の自然科学分析—第440次」『奈良文化財研究所紀要2013』、209-215頁、奈良文化財研究所
 神野 恵編 2014『香辛料利用からみた古代日本の食文化の生成に関する研究』平成25年度山崎香辛料財団研究助成 成果報告書、奈良文化財研究所
 関根貞隆 1969『奈良朝食生活の研究』 吉川弘文館
 関根貞隆 2001「長屋王家木簡にみる物名について」『研究論集Ⅻ 長屋王家・二条大木簡を読む』、149-182頁、奈良国立文化財研究所
 中村至大・井之口希秀・南谷忠志 2004『日本植物種子図鑑 改訂版』東北大学出版会
 南木睦彦 1995「SD4750・5100・5300・5310の大型植物遺体」『平城京左京二条二坊・三条二坊発掘調査報告書—長屋王邸・藤原麻呂邸の調査—』、543-552頁、奈良国立文化財研究所

古代都城出土の植物種実

2013～2015年度

公益財団法人浦上食品・食文化振興財団学術研究助成

『古代の植物性食文化に関する考古学的研究』成果報告書

2015年9月30日 発行

編集・発行

国立文化財機構奈良文化財研究所

都城発掘調査部考古第一研究室

〒630-8577 奈良市佐紀町247-1

TEL：0742-30-6833

印刷・製本

株式会社 アイブリコム